

平成 19 年度環境省中部環境パートナーシップオフィス

運営業務報告書（4－6月期）

2007 年 7 月 31 日

特定非営利活動法人 ボランティアネイバーズ

平成19年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務仕様書

1 目的

平成15年7月に制定された「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」(法律第130号)第19条において、環境保全の意欲の増進を効果的に推進するため、拠点としての機能を担う体制を整備することとされ、また、基本方針(平成16年9月閣議決定)において、地域のパートナーシップづくりの支援拠点を地方環境対策調査官事務所(以下「地方事務所」)ごとに設置していくこととされている。

中部地方事務所においては、市民、環境NGO/NPO、行政、事業者等各主体間の対話、交流、連携の場や情報の提供等の環境パートナーシップ事業を行うための活動拠点として、名古屋市中区三の丸の愛知県東大手庁舎に「中部環境パートナーシップオフィス(以下「EPO中部」という)」を平成17年3月に開設した。

本業務は、環境パートナーシップを推進するための各種事業等を企画・運営することにより、市民、環境NGO/NPO、行政、企業等社会を構成する主体によるパートナーシップにおける取組のための基盤形成を促進する。

2 業務内容

(1) 維持管理業務

- ① 開館日は、原則火～土曜日(日・月曜日及び祝日、旧盆・年末年始は閉館)とし、開館時間は、原則、午前10時から午後7時(土曜日は午後5時)とする。
- ② 職員を2名程度、配置するものとする。
- ③ 複写機、印刷機、通信機器等の借料等EPO中部の維持管理に関する事務を行う。

(2) 環境情報の収集、提供等業務

- ① 環境関連書籍・資料等の収集、提供
環境に関する書籍や、環境NGO/NPOや企業、行政等から環境情報資料等を収集・整理し、提供する。
- ② 各主体の取り組みに関する情報の収集、提供
環境パートナーシップに関連する事例や情報を収集・整理し、ホームページ等各種媒体を用いて広く情報発信を行う。
- ③ 中部管内の国の出先機関や県・市町村、環境NGO/NPO、企業等に対し、必要な広報・後援を行うものとする。

(3) 環境パートナーシップ推進業務

- ① 様々な主体間における連携の促進
中部管内の現状及び課題を把握するとともに、環境問題の解決に向けた市民、環境NGO/NPO、行政、市民、企業など、様々な主体間の連携を促進するため、意見交換会やワークショップ、環境報告書を読む会等を開催する。
- ② 環境パートナーシップ形成の推進等に係る人材の育成
次世代を担う青年層を中心に、環境に係わる様々な主体間のパートナーシップ形成を推進するための人材育成に取り組む。

(4) 地域活動支援業務

① ミーティング、交流等の場の提供

来所者が親しみやすく利用しやすいよう施設・設備の維持管理に努めるとともに、ミーティングなど少人数の打合せ、環境NGO／NPOの活動の展示や交流の場を提供する。

② 助言・相談業務

環境活動の取り組み等に関する相談、助言を行う。

(5) 運営協議会の開催

EPO中部で実施する事業に関する助言等を得るため、中部環境パートナーシップオフィス運営協議会を2回程度開催する。

(6) その他業務

上記業務のほか、中部地方環境事務所又は請負団体において必要と判断する業務について、双方協議のうえ、実施することが出来る。

3 業務実施期間

平成19年4月1日から平成20年3月31日まで

4 業務結果報告書の提出期限等

平成19年 7月31日(4月～6月報告分)

平成19年10月30日(7月～9月報告分)

平成20年 1月31日(10月～12月報告分)

平成20年 3月31日(1月～3月報告分)

5 成果物

報告書 2部(A4版30頁程度)

報告書の電子データを収納した電子媒体(CD-ROM) 2式

*報告書及びその電子データの仕様は、別紙によること。

提出場所 中部地方環境事務所 環境対策課

6 著作権等の扱い

(1) 成果物に関する著作権、著作隣接権、商標権、商品化権、意匠権及び所有権(以下「著作権等」という。)は、環境省が保有するものとする。

(2) 成果物に含まれる請負者又は第三者が権利を有する著作物等(以下、「既存著作物」という。)の著作権等は、個々の著作者等に帰属するものとする。

(3) 納入される成果物に既存著作物等が含まれる場合は、請負者が当該既存著作物の使用に必要な費用の負担及び使用許諾契約等に係る一切の手続を行うものとする。

7 情報セキュリティの確保

請負者は、環境省情報セキュリティポリシーを遵守し、情報セキュリティを確保するものとする。特に下記の点に留意すること。なお、環境省情報セキュリティポリシーは以下のURLにおいて公開している。

<http://www.env.go.jp/other/gyosei-johoka/sec-policy/full.pdf>

① 請負者は、請負業務の開始時に、請負業務に係る情報セキュリティ対策の遵守方法及び管理体制について、環境省担当官に書面で提出すること。

② 請負者は、環境省から要機密情報を提供された場合には、当該情報の機密性の格付けに応じて適切に取り扱われるための措置を講ずること。

③ 請負者は、環境省情報セキュリティポリシーの履行が不十分と見なされるとき又は

請負者において請負業務に係る情報セキュリティ事故が発生したときは、必要に応じて環境省の行う情報セキュリティ監査を受け入れること。

- ④ 請負者は、環境省から提供された要機密情報が業務終了等により不要になった場合には、確実に返却し又は廃棄すること。

8 その他

請負者は、本仕様書に疑義が生じたとき、本仕様書により難い事由が生じたとき、あるいは本仕様書に記載のない細部については、環境省担当官と速やかに協議し、その指示に従うこと。

(別紙)

1. 報告書の仕様

報告書の仕様は、平成 13 年 2 月閣議決定「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」(平成 19 年 2 月 2 日一部改正。以下「基本方針」という。)に従うこと。

ただし、報告書に使用する用紙については、古紙パルプ配合率 100%、白色度 70%程度以下とし、裏表紙には古紙パルプ配合率、白色度、その他基本方針の印刷に係る判断基準のうち該当する事項について明記すること。また、可能な限り市中回収古紙を含む再生紙を使用するよう配慮すること。

2. 電子データの仕様

1) Microsoft 社 WindowsXP 上で表示可能なものとする。

2) 使用するアプリケーションソフトについては、

(1) ワードプロソフトについては (Justsystem 社一太郎シリーズ Ver.13 以下、Microsoft 社 Word2002 以下)

(2) 計算表については、表計算ソフト (Microsoft 社 Excel2002 以下) で作成されたものとする。

(3) 画像については、BMP (ビットマップピクチャー) 形式又は、J P E G形式とする。

3) 2) による成果物に加え、(1) P D Fファイル形式、(2) H T M Lファイル形式 (写真・イラスト・グラフ等の画像部分は、G I F、J P E G等のファイル形式) による成果物を各々作成すること。

4) 以上の成果物の格納媒体はコンパクトディスクとする。事業年度及び事業名称等を収納ケース及びコンパクトディスクに必ずラベルにより付記すること。

5) 文字ポイント等、統一的な事項に関しては環境省担当官の指示に従うこと。

3. その他

なお、成果物納入後に、請負者の責めによる不備が発見された場合には、無償で速やかに必要な措置を講ずること。

平成 19 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（2007 年 4 月）

【平成 19 年度 4 月事業報告】

平成 19 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（4 月）は、通常業務に加え、昨年度の運営協議会提案事業で継続事業となったりコー中部(株)グリーンプロモーション<エコひいき>2007 を中心に実施した。

【4 月事業報告】

4 月 1 日 *	RCE-ESD 設立準備フォーラム	新海・鶴飼・宇野
4 月 12 日	ユニー(株)なごや環境大学打ち合わせ	新海
4 月 14 日 *	エコひいき 2007 説明会	新海・鶴飼・河原
4 月 17 日	エコひいき運営事務局会議	新海・鶴飼
4 月 18 日 *	ESD-T 担い手会議	新海・桜井・宇野
4 月 19 日	中京大学金ゼミと打合せ ワールドコラボフェスタ打ち合わせ	新海・宇野 新海・桜井
4 月 21・22 日*	アースディあいち	新海 遠山
4 月 23 日	環境教育リーダー研修打ち合わせ（長野）	新海
4 月 25 日	エコひいきブレーン会議	新海・鶴飼

*は報告を掲載しています。

【5 月事業報告】

5 月 8 日	エコひいき第一次審査会・運営事務局会議	新海・鶴飼
5 月 9 日	なごや環境大学交流会・講座・うごかそうまい事業ミーティング	新海
5 月 12 日	NPO 法人森林の風取材	新海
5 月 14 日	エコひいきブレーン会議	新海・鶴飼
5 月 15 日	名古屋市立大学成氏と ESD 打ち合わせ	新海・宇野
5 月 16 日	全労災審査会	新海
5 月 17 日	エコポイント事業打ち合わせ	新海・桜井・宇野
	ESD-T 担い手会議	新海・桜井・宇野
5 月 18 日	松下エコシステムズ絵画コンクール打ち合わせ	新海
5 月 20 日	なごや環境大学総会	新海
5 月 22 日	運営協議会メンバー審査会 ワールドコラボフェスタ打ち合わせ	新海 新海・桜井・宇野
5 月 24 日	名古屋市立大学 ESD 勉強会	新海
5 月 25 日	北陸運営協議会	新海・鶴飼
5 月 28 日	長野環境教育研修打ち合わせ	新海
5 月 29 日	なごや環境大学講座交流会	新海・鶴飼
5 月 30 日	政策提言セミナー評価会&地域社会底上げ交流会	新海・鶴飼

○今後の検討事項

今年度事業の具体的プランの詰めと新スタッフ体制、予算の配分など

【中部環境パートナーシップオフィス 4月月報】

4 月		来館者数 (相談・問合せ)	電話 (相談・問合せ)	相談・問合せ内容	スタッフ数
1	日			RCE/EDS フォーラム	3.5
2	月				
3	火	8(7)	5(0)		4
4	水	5(3)	6(0)		4
5	木	10(5)	12(0)	エコひいきミーティング	4
6	金	13(8)	9(0)	事務所	3
7	土	0(0)	2(0)		4
8	日				
9	月				
10	火	11(7)	7(0)	エコひいきリコー中部とのミーティング	3.5
11	水	2(2)	7(0)		4.5
12	木	14(8)	13(0)	事務所との打合せ ユニーお店探検隊の打合せ アースディブース説明会参加	4
13	金	6(4)	15(0)		4
14	土	8(5)	8(0)	エコひいき説明会	3.5
15	日				1
16	月				
17	火	33(8)	7(1)	ベビーアースディ打合せ エコひいき事務局ミーティング	4
18	水	15(15)	10(0)	ESD-T 担い手会議	4
19	木	7(0)	13(1)	中京大学金先生ゼミ訪問 (ESD) NIC 加藤さんとの打合せ	4
20	金	4(2)	10(1)	事務所との打合せ CSR ミーティング (PS サポート)	4
21	土	0(0)	1(0)	アースディ出展	3
22	日			アースディ出展	3
23	月			長野県との打合せ	1
24	火	5(2)	5(1)	ユニーお店探検隊の打合せ	4.5
25	水	9(6)	9(0)	ブレーションミーティング 温暖化センター交流会	4.5
26	木	7(1)	8(0)		2.5
27	金	3(0)	9(0)	東大手庁舎入居機関打合せ	2.5
28	土	1(1)	3(0)	自然関係施設・活動団体等意見交換会参加	2
29	日				
30	月				
合計		161 名/20 日	159 件,		82 人
平均		8.47/日			3.4 人/24 日

ホームページアクセス数：15750 件

【中部地区の環境関連団体の基礎資料の収集・管理】

* 4月期に収集した資料 行政関連：9種 企業関連：6種 NPO関連：25種 その他：5種 計：45件

タイトル	年度	発行	備考
豊田市自然観察の森 雑木林 2007 年 4 月 vol.197	2007	豊田市自然観察の森	A4 4P 日本語 2007 発行
なんじゃもんじゃ通信 Vo.19 No.2	2007	名古屋自然観察会 名古屋支部代表	B5 16P 日本語 2007.4.4 発行
特定非営利活動法人水とみどりを愛する会会報 みず&みどり 通信	2007	特定非営利活動法人水とみどりを愛する会	A4 1P 日本語 2007.4 発行
FLIPPER	2007	アイサーチ・ジャパン	B5 16P 日本語 2007.4.1 発行
トヨタ白川郷自然学校 ご利用ガイド	2007	トヨタ白川郷自然学校	A4 36P 日本語
トヨタ白川郷自然学校 リーフレット	2007	トヨタ白川郷自然学校	A4 変形四つ折 1P 日本語
トヨタ白川郷自然学校 プログラムのご案内	2007	トヨタ白川郷自然学校	A5 12P 日本語
平成 19 年度 生物分類技能検定	2007	財団法人自然環境研究センター	A4 三つ折 1P 日本語
平成 20 年度 生物分類技能検定	2007	財団法人自然環境研究センター	A2 1P 日本語
なごや環境大学 共育講座 親子ふれあい自然塾ー水源の森ウォッチング	2007	名古屋自然観察会	A4 1P 日本語 2007 発行
平成 19 年第 2 回「なごや自然教室」 蛇ヶ洞川で自然体験	2007	「なごや自然教室」事務局	A4 1P 日本語 2007 発行
ネイチャーイベント 2007 年 4 月～6 月のご案内	2007	河川環境楽園 自然発見館	A3 三つ折 1P 日本語 2007 発行
平成 18 年度 「あ組」	2007	浅田町中堅会	A4 25P 日本語 2007 発行
愛知県地球温暖化防止活動推進センター	2007	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	A4 1P 日本語 2007.4 発行
NAPEC JOURNAL No.14 SPRING 2007	2007	(社) 全国環境保全推進連合会	A5 16P 日本語 2007 発行
きんき環境館 第 4 号	2007	環境省 きんき環境館	A4 8P 日本語 2007.3 発行
Sun Sun エナジー no.59	2006	ワーカーズコープ エコテック	A4 10P 日本語 2006.11.20 発行
Sun Sun エナジー no.61	2007	ワーカーズコープ エコテック	A4 10P 日本語 2007.3.20 発行
第 6 回 NGO/NPO・企業環境政策提言フォーラム	2007	「NGO/NPO・企業環境政策提言推進委員会」事務局	A4 1P 日本語 2007.4 発行
豪快じゃない号外 TEAMGOGO!2007	2007	TEAM GOGO!事務局	B4 二つ折 1P 日本語 2007.3.23 発行
環境経営事典 2007 用語解説・法律・データ集	2007	日経 BP 社	A4 120P 日本語 2007.5.1 発行
日経エコロジー縮刷版 CD-ROM2006	2007	日経 BP 社	CD-ROM P 日本語 2007.4 発行
つな環 つ★な★ぐ★環境パートナーシップ 第 10 号	2007	地球環境パートナーシッププラザ (GEIC)/環境パートナーシップオフィス(EPO)	A4 24P 日本語 2007.3 発行
Earth day Network Spring リーフレット	2007	アースデイとやま 2007 実行委員会	A4 三つ折 1P 日本語 2007.4 発行
Earth day Network Spring チラシ	2007	アースデイとやま 2008 実行委員会	A4 1P 日本語 2007.4 発行

みんなのかんきょう 49	2007	環境ふくい推進協議会	A4 8P 日本語 2007.4 発行
TOHOKU EPO 通信 vol.1	2007	東北環境パートナーシップオフィス	A4 8P 日本語 2007.4 発行
ESD つながるためのキーワード	2007	環境省北海道環境パートナーシップ オフィス	B5 16P 日本語 2007.4 発行
ESDレポート vol.11 2007 春	2007	NPO法人「持続可能な開発のための 教育の10年」推進会議	A4 8P 日本語 2007.3.15 発行
「花祭」の継承ー「山村と都市の交流事業」 ビデ オ	2007	ボランティアネイバース	ビデオ 35 分 日本語 2007.4.4 発行
Cabi ネット 4.01	2007	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4 26P 日本語 2007.4.1 発行
国際理解教育基礎講座 2007 「足元から考える国 際理解教育」	2007	特定非営利活動法人 NIED・国際理 解教育センター	A4 1P 日本語 2007.4 発行
JICA 中部/開発教育指導者研修(上級編)2007「人 を啓き、よりよい未来を拓く、教育！」	2007	独立行政法人国際協力機構 中部国 際センター (JICA 中部)	A4 1P 日本語 2007.4 発行
アイキャンだより 2007 年 3 月 第 44 号	2007	ICAN 日本事務局	A4 12P 日本語 2007.4 発行
子育てつどいの広場&カフェ	2007	NPO 法人名古屋コダーイセンター	A5 8P 日本語
もんもの木 おしらせ 4 月号 NO.9	2007	NPO 法人名古屋コダーイセンター	A4 1P 日本語 2007.4 発行
Green Earth FoE Japan Newsletter January 2007 Vol.22	2007	国際協力 NGO FoE Japan	A4 8P 日本語 2007.4.20 発行
犬山市市民活動支援センター しみんてい ニュース vol.28	2007	(特定) 犬山市市民活動支援センターの 会	A4 6P 日本語 2007.4.15 発行
第 1 回 3R 推進全国大会報告書	2007	環境省、愛知県、名古屋市、3R 活動 推進フォーラム	A4 65P 日本語 2007 発行
環境デーなごや 2006 開催報告書	2007	環境デーなごや実行委員会事務局	A4 16P 日本語 2007.4 発行
海上の森の自然史	2007	あいち海上の森センター	B5 200P 日本語 2007.1 発行
名古屋の生息生物調査 2006 報告書	2007	名古屋の生息生物調査実行委員会	A4 80P 日本語 2007.3.31 発行
サステナビリティレポート 2006	2006	セイコーエプソン株式会社	A4 58P 日本語 2006.6 発行
18 年度版省エネ事例集	2007	信州省エネパトロール隊	A4 100P 日本語 2007.3 発行
日経エコロジー eco May2007	2007	日経 BP 社	A4 140P 日本語 2007.4.8 発行

【主な事業報告】

事業名	中部地域の持続発展教育拠点準備フォーラム
共催	中部 RCE/ESD ネットワーク、ESD-T
後援	中部大学中部高等学術研究所、ESD-J
日時	2007 年 4 月 1 日（日）13：30～17：00
場所	中部大学名古屋キャンパス6階
参加者数	約 70 名

●事業スケジュール

開 会

セッション1 「ESD のストーリーとヒストリー：中部地域拠点（中部 RCE）の場合」

1. 北村友人 ESD をめぐる国際的議論の潮流と「国連・ESD の10年」
2. 浅川和也 ESD をめぐる日本の動きと「政府行動計画」
3. 村瀬俊幸 「愛・地球博」と市民参加（2005.3.25～）
4. 新海洋子 ESD-T キックオフ（2005. 5.25～）
5. 峯陽一 ESD 中部拠点準備と「中部拠点 ESD 宣言」（2006.12.13）

Ⅱ セッション2「流域圏プロジェクトの提案」

1. 高野雅夫：「さまざまな問題が出会う場としての REC」
2. 寺井久慈：「森林に学び、保全する取り組み」
3. 上野薫：「かすがい KIZUNA」～人・自然を尊ぶ心の育成～の活動紹介」
4. アンジー・ダアノイ、アウロア・デラフェンテ：「日本で暮らすフィリピン人」
5. 全泓奎：「“ホームレス” の経済参加」

Ⅲ セッション3「中部 RCE-ESD 協議会」の立ち上げと「ESD-i（仮称）」設立への呼びかけ

総 括

●事業内容

セッション1では、5人のゲストにそれぞれの立場から、ESDの歴史や国際的な動き、国内・地域の動きについての報告をいただき、以下を共有しました。

「ESDは、フォーマル（学校教育）、ノンフォーマル（学校外教育）、インフォーマル（家庭教育）という現在行われている多様な教育をつなげていくこと、多様な主体のネットワークづくりとそのネットワークを活用して新しい教育のしくみづくりをすることである。また、新しい教育をつくるのではなく、今までの実践を束ね、個々で行われていた教育のシナリオを大きなシナリオに描きなおすプロジェクトである。そしてそれは国レベルではなく、コミュニティレベルで実践することが大事である。」

現在中部地域ではESDの拠点づくりをすすめている。その目的は世界と地域の問題と主体を結びつけることである。さらに、共有できるESDに関するツールボックスをつくることやコーディネータを育てることなどを進めていく。その際に重要な点は、1) さまざまな社会問題が繋がっていること、2) 連携していること、3) グローバルな視点・ジェンダーの視点を持つこと、4) 世代を超えてつながること、5) 新しい価値観をつくっていくこと、である。」

また、その後の議論では

- 1) 社会教育の分野も大切なので、大学と市民の活動だけでなく、企業・産業界のCSR活動や、博物館などを巻き込む必要がある
 - 2) おばあちゃんの知恵、「都市と農村」や「農業と工業」の共存、「農業」というもののづくり、「工学」の視点などを考慮すること
 - 3) 学校の教科と教科外活動をESD的な視点を補完すること。ESDで連携する場をつくること
- といった点を意見交換しました。

セッション2では、「人間の生活や文化がつながる流域を単位に物事を考えよう。今の問題をバネにして、地域の発展へ繋げていこう！まずは出会うことから始めよう」、という提案から始まり、川でつながる海と山の活動交流、地域の各主体参加による環境教育、在日の外国の方の人権保護、ホームレスの社会参加の4つの事例紹介をしました。

セッション3では、中部地域のESD拠点(RCE)の認定に向けての申請書を作成中であること、6月3日に協議会を立ち上げ9月23・24日に授与式を含めたイベントが行われること、など今後のスケジュールについて説明がなされました。またこれまで市民ネットワークとして、ESD-Tと中部RCE-ESDの2つの流れがあったが一つにしてはどうか、一つにした場合の組織名を伊勢三河湾流域圏のプロジェクトをメインにするので、ESD-iにしたいという提案がありました。フロアとの意見交換では、

1) この地域の特色である「ものづくり」をもう少し意識した取り組みを考えてはどうか

2) 伊勢三河湾流域圏、名古屋らしい取り組みをしてはどうか

3) ESD-TとESD-iの違いは？関係は？

といったことが出されました。

そして最後に総括として、

「まだまだやるべきことはたくさんある。いかに企業や学校に参加していただくか、参加の輪を広げるか、一番持続不可能な状況にある人たちにどう対応していくか、といった課題がある。でも大事なことは、一人ひとりの夢を実現するためにつながるということである」というメッセージで締めくくられました。

●担当者からのコメント・所感

これまで多文化共生、環境、人権などそれぞれの社会課題についてのフォーラムはあったが、今回のように、違うイシューで活動している人たちが「ESD」をキーワードに集まり、地域の教育のありかたや、地域の教育のしくみをつくるであろう組織について意見交換する場はあまりなかったように思う。

ESD自体は今まで行われてきた活動も含まれるが、それぞれの活動がESDと称し、つながって集まって進めようとしていることは、分野や立場を超えた活動を生み出し、個々の活動ではできなかったことを実現する可能性がある。このような会の積み重ねが、組織をつくり、運動をつくり、ひいてはしくみづくりにつながるのだと、確実な一歩を踏み出していることを感じた。

グリーンプロモーションエコひいき 2007 『地域も、会社も元気にする！エコひいきの価値伝えます』説明会	
日時	2007 年 4 月 14 日（土）14：00～16：30（150 分）
会場	ウィル愛知 愛知県女性総合センター 会議室6（3F）
主催	リコー中部株式会社
企画運営	エコひいき 2007 運営事務局
参加者	29 名 他リコー中部(株)3 名 運営事務局 5 名 EPO 中部 1 名

企画趣旨

- 1) エコひいき 2007 への申請を希望している方に、エコひいきのコンセプト（何を実現しようとしているか）やしきみについて理解していただく。
- 2) 過去の助成団体から体験談やエコひいきのもつ価値や可能性について感じていることを話していただき、〈エコひいき〉を媒介にした関係性を育む。
- 3) 〈エコひいき〉をよりよくしたい、地域に不可欠なしくみにしたいと考えている人たちとの協働の関係性をつくるきっかけの場にする。
- 4) エコひいき 2007 からエコひいきの課題を解決するための〈企画提案コース〉を設けたことを説明する。昨年実施したエコひいき交流会などから出された「いかに伝えるか」という課題をテーマに、企画提案を募ることを伝える。

スケジュール

時間	内容
13:30 (30 分)	開場・受付開始・グループわけ 名札づくり（A4 ペーパー） 上段：「氏名・所属」下段：「エコひいきについて感じること」
14:00 (5 分)	開会あいさつ 1) 主催者あいさつ 2) 本日の目的、プログラムについて
14:05 (30 分)	グリーンプロモーションエコひいきとは？ 1) DVD 観賞 2) エコひいきについて
14:35 (20 分)	セッションⅠ 自己紹介、「エコひいきについて感じること」、「エコひいきを使ってやりたいこと」 グループセッション（4 グループ）
14:55 (40 分)	セッションⅡ 過去の助成団体からの体験談メッセージ ーエコひいきの価値と可能性に気づく・エコひいきの課題に気づくー 1) エコひいきを体験して自身の活動が変化したこと 2) エコひいきが他の助成と違うところ 3) 申請しようとしている団体へのメッセージ ＜発表者＞ 過去助成団体： なごや平和公園里山愛護会（2003・愛知） 鬼頭 保さん/滝川 正子さん 守山リス研究会（2004・愛知） 北山 克己さん NPO 法人表浜ネットワーク（2005・愛知） 田中 雄二さん Nature Clean（2005/2006・静岡） 小池 修さん NPO 法人ガラ紡愛好会（2006・静岡） 井上 啓子さん 大高緑地の湿地を守る会（2002・愛知） 石原 洋一さん 環境ボランティアサークル亀の子隊（2006・愛知） 鈴木 吉春さん
15:35（10 分）	休憩 ティーブレイク&歓談
15:45 (40 分)	エコひいき 2007 申請説明&意見交換 1) 募集概要・申請書の説明 2) 質疑応答 3) 申請書がとおるコツお伝えします
16:25 (5 分)	セッションⅢ 「エコひいきについて感じること」
16:25 (5 分)	閉会あいさつ

■主催者あいさつ：リコー中部株式会社 CSR 推進室 柴垣民雄さん

今回の企画の目的は、エコひいきの価値を伝える、ということです。2002 年にスタートしたエコひいきは毎年姿を変えてきました。本日集まって頂いた方は、これまで助成を活用していただいた方、今回始めて申請しようとしている方、がいっぱいいると思います。

現在エコひいきは、課題を抱えています。その課題解決に向けて、地域みなさんと一緒にうまく進めていくことができるようになってきたのではないかと、思っている面があります。この説明会で、エコひいきが何を目的に実施しているのかを理解していただき、ご応募いただけたならもっと地域に大きな活動が生まれる一年になるのではないかと思います。

本日は本当にお忙しい中、足を運んでいただきましてありがとうございます。1 日よろしくお願い致します。

■本日の目的について：EPO 中部 鶴飼 哲

本日の企画の目的ですが、2 点あります。まずはエコひいき 2007 の募集開始につきまして、まずは知っていただきたいということです。もっと多くの方に知っていただき、エコひいきに参加していただきたいというのが 1 点です。もう 1 点ですが、今日は過去の助成団体に参加いただいています。過去の助成団体の方から、他の助成団体との違いや社員・お客さま・家族が活動に参加したことについての感想など体験談をお話しいただきます。そして、今後エコひいきをよりよくしていくために、地域で価値のある助成のあり方について一緒に考えていきたいというのが 2 つめのねらいです。どうぞ一日よろしくお願い致します。

【グリーンプロモーションエコひいきとは】

簡単にしくみの説明をします。資金の提供はわずか 20 万円という小さな金額です。それだけではなく、いろんな人達が活動に参加していく機会を設けています。みなさんの活動への参加を、社員や家族、お客様、に呼びかけていくことが一番大きな特徴です。多くの人達が必然的に関わらないといけなくなる、面倒くさい仕組みです。その中でいろんな人が参加して、対話をする、コミュニケーションをする、といったことを非常に大事にしています。みなさんの活動がうまくいくことは勿論ですが、活動を通して、地域の中でこんなことができるのではないかと、いった対話をし、協働し、一緒にやっていければと思います。これらの輪が広がってこればすごく嬉しいことです。そんな助成のしくみです。

＜DVD 観賞＞

2006 年度に助成を受けられた大吞地区グリーンツーリズム推進協議会の活動をまとめた DVD でエコひいきを紹介。

＜しくみについての説明＞

1 テーマわずか 20 万円の助成です。全部で 10 テーマ、合計金額は 200 万円となっています。特徴の 1 つがポイント制度です。社員がお客様のところで、市民の環境活動を応援していきたい、と伝えて、エコカードを集めます。そのカードがたまると、ポイントに応じて助成する金額が決まります。今年も目標を達成して、10 の団体に助成ができることになりました。そして、説明会をして伝えています。その後集まってきた応募に対して一次選考をして、条件等を確認します。次のステップはエコひいき投票です。社員・お客さん・過去の助成団体が応援したい、または参加したいと思う団体に投票します。これらを基礎ポイントとして、外部の審査員が最終選考会で選ぶという選考のしくみです。助成が決まった団体については、活動の現場に行って認定式などを行っています。そこには社員や家族、お客様などが参加をしてもらいます。これらの流れがスパイラルで回っていきます。

(株)リコー中部として実施するきっかけは、6 年前になります。もっといい会社になっていくためにはどうしたらよいのであろうか、と社員と話し合っているときに、リコー中部(株)という会社が立ち上がるというタイミングでした。ただの助成ではなく、販売活動(本業)と重なりあうしくみを展開したい、と動いてきました。そこでエコポイントカードを社員に課してきました。

地域社会の中で、社員がいろいろな気づきを感じて自分自身で行動をとっていくことが大切だとして、活動に参加させていただいています。自分たちのためでもあるのです。社員が自立した市民の一人になっていけるような機会をいただいています。みなさんと一緒になって社員の意識をもっと変えていきたいと思います。もう一つ夢、野望があります。リコー中部で地域の人たちと一緒にいけるのであれば、この活動をもっと大きく広げていきたい。他の会社も巻き込んで進めていきたいと思っています。助成活動以外に本日のようないろんな方が集まる場もつくり、活動を進めているところです。

実際にスタートして 40 の助成団体、社員参加は約 700~800 名、エコカードは約 1 万人を超えます。小さな活動でも続けることによって大きく広がると思います。いろんな場でコミュニケーションをつくり、協働の輪を広げてきました。エコひいきを通じた協働です。参加した方に気づきが生まれます。そのことがリピーターにもつながります。ホスピタリティを学ぶ場でもあります。社員が皆さんと一緒に学ぶ場であり、それを会社の中、地域の中で活かしていくといったことになるのです。

■セッションⅠ

〈自己紹介：エコひいきについて感じる事〉

グループにわかれてフリップを用いたトークセッション

- よくわかりませんが、みんなの「エコひいき」で、あってほしいものです。
- おもしろいことがありそう！！
- 地球温暖化防止活動として各企業活動されているが、リコーさんの活動は社員も参加というユニークな方法でがんばっておられることがわかった。
- えこひいき
- 社会のしくみとして！
- オープンで気楽な印象
- よくわからない
- 出会いの場
- 自信がついた
- お金を産まない環境ボランティア団体の弱気を助ける
- ガンバレ ボクらの応援団
- いろいろな人が参加して長く制度が継続すること
- CSR ヨロシクです
- 人の力
- 仲間づくり
- 地球にやさしい
- 皆で参加してくれて素晴らしいと感じている
- がんばりましょう
- GOOD！です
- ？？



写真 1 <セッションⅠ>トークセッション



写真 2 <セッションⅠ>トークセッション

〈エコひいきを使ってやりたいこと、実現したいこと〉

- 他地域で活動している団体・地域の人たち、行政との交流会（活動紹介他）を通してネットワークの構築
- リコー中部とエコー中部を創ろう！
- 活動の広がり
- 思いが広がって⇒意識としてさらに広く活動すること
- 地道に継続有るのみ！！継続には“道”ができると信じている
- 持続
- 社員の方は実費。4～5 時間程度、棚田の水源に植樹の為に植樹エリアづくり
- 地域の子どものためや里山の整理など
- 市民の皆さんに少しでも地球温暖化防止に興味をもっていただける活動をしたい
- 高校生と一緒に環境活動をしたい
- 中学生までエコクラブで頑張った子どもたちにステップアップした活動を自分たちで地域を巻き込む企画した活動のサポートをしたい
- 筏下りで上、下流交流を
- 自分達がフィールドにしている中山間地域の魅力を再発しつつ、再開発し、地域の子どもたちが地元を好きになる都市部の子どもたちがその地域を好きになるエコツーリズムとしての地域の魅力をアップする
- 石浜づくり、里山づくり、海浜ツアーなど
- エコひいきについて職場で講演してもらったら職員の意識もかわるかな？

■セッションⅡ 過去の助成団体からの体験談メッセージ

エコひいきの価値と可能性に気づく、エコひいきの課題に気づく —



1. エコひいきを体験して自身の活動が変化したこと

- ・自信がついた
- ・助成申請のノウハウを得た
- ・小さな活動だけど、エコひいきしてもらったことで広がった
- ・あまり変わったことはないけれど…。
- ・社長さんに活動の説明をし、真摯な気持ちを伝えたことで、自分たちのミッションを再確認することができた。
- ・作業が早く進んだ
- ・変わったことではないが、リコー社員が継続して関わっていけるように。
- ・夢・楽しさを得られた。
- ・看板をつくって活動を地域に公開でき、新しい参加者もふえた
- ・環境、海岸侵食などの勉強会がやりやすくなった。
- (レーザープリンター購入)
- ・いろんな人がつながるように
- ・石浜づくりの活動が知られた
- ・協力を得られるようになった
- ・作業が早く進んだ
- ・助成金でリコーのレーザープリンターを購入でき、これが勉強会、行政への説明資料や講演・学校で環境教育に使う資料作りに大いに役立っています。(後日メールでいただいたもの)

写真3 <セッションⅡ-1>過去の助成団体からの発表の様子



2. エコひいきが他の助成と違うところ

- ・貴重な労働力が他とはちがう。もう少し社員の方とコミュニケーションを深め、活動への意識あわせなどをしたかった。
- ・欲張りなところ、通常プラス α 程度が良いと思う。
- ・社員参加があること。社員のフォローアップのしくみがあるといい…。参加した社員さんが3-5年後に活動に参加してチェックするなど。
- ・こうしたい！こんな人が集っている。強い思い！それと成果をデータ化すること。数値にすること。
- ・社員が参加したことで行政が活動を認めた。そのことで大きなことができた。
- ・大きなことができた。
- ・人が動くこと。それが大きな力になり、より有効になる。
- ・他社は金を出すが手は出さない。エコひいきは手も出してくれる点は大違いで評価されます。折角参加して下さるのであれば、参加した方々からの評価を頂けるとありがたい。口も出して頂きたい。もし今年も助成が頂けるようになった場合、アンケートを作成しておいて参加者から意見をもらえるようにしたいと思います。
- ・我々の活動は参加者が多く、リコーさんからの顔ぶれも同じではないので、顔見知りになるには時間がかかり、参加者とコミュニケーションが取れるようになり難いです。少しでもコミュニケーションが取りやすくなるようにという事で参加者には全員に名札をつけてもらっています。上にも書いた通りリコーさんからの参加者の意見も聞きたい。

写真5 <セッションⅡ-3>過去の助成団体からの発表の様子

3. 申請しようとしている団体へのメッセージ

- ・社員参加で一緒にできたことがいい
- ・社員、お客様と一緒に活動できたことで、活動の良さがひろがる、思いの支援をうけて、感じ取れるものがある。
- ・参加して楽しい！よかったなぁと思えるような企画にすること
- ・永続的なしくみにしていこう
- ・たくさんの人と出会える場です
- ・真剣さが伝わるように
- ・活動の成果を数値で表すことも大切
- ・会の活動を利用してほしい！地域の人々のもっと多くの出会いを！
- ・応援してほしい、うちの活動はすごいぞ！って見せること

- ・難しい内容ではなく、出来るだけシンプルな活動が良いと思います。参加して楽しい事。活動に参加して身体を動かした後では、爽快感なり、達成感のある活動が良いと思います。 何ヶ月も活動してようやく達成感が得られるようなモノでは良くないと思います。（後日メールでいただきました）

■エコひいき 2007 申請説明&意見交換

1. 募集概要、申請書の説明

2. 申請書がとおるコツお伝えします

NPO の経験から助成申請が通り易くなるための書き方のポイントを説明。

- ・思いだけではなく、団体・活動の強みのポイントをまとめて簡潔に書く
- ・なぜ実施するのかといった目的、方法、時間、などを明確に書く
- ・活動を行うことによって、改善されること、活動の変化、影響について明確に簡潔に書く
- ・シナリオの提示（地域の問題⇒活動⇒改善していく流れを書く）
- ・地域に必要な活動であることをしっかりと書く
- ・20 万円の用途がどのような影響があるのかを書く
- ・お互いの立場からの視点も書く
- ・社員、お客様、家族の参加しやすい活動を提示する
- ・コミュニケーションを交わす媒体であることを意識する

■セッションⅢ「エコひいきについて感じること」

開会の名札づくりとの比較するということで、フリップに書いていただき、参加者全体で共有をした。

- ・助成制度をツールとした人のつながりをつくるシステム
- ・エコひいき???
- ・GOOD です！期待です
- ・やっぱり人が動くところが良いです
- ・社員の方が参加してみたい！と思わせるのがコツ、「エコひいき」ってすてき
- ・想い、夢の共有
- 他・地域社会にエコひいきがあることによって、活動がいきいきとできる
- ・商いの思い、御ひいきご縁の思いが環境・地域にも伝わってきていると思う
- ・リコー中部のような企業が多くできてほしい。そのためには市民も頑張っていかなければならないと思う。たけのこのごとくいでよ！リコーの〈エコひいき〉に続く企業よ、雨後のタケノコのごとく出よ！
- ・単に助成金をもらいにきたつもりですが、お金だけでない人と思いと力を感じました
- ・少しずつ変わってきた。リコーの社員やその家族、取引先なども有機的に巻き込めれば、地域づくりの大きな起爆剤になるのではないか
- ・思いの中でつながっている人たちの集まり
- ・リコー中部とエコー中部を創ろう！



写真 6 <セッションⅢ>トークセッションの様子

■閉会あいさつ：リコー中部株式会社 CSR 推進室 柴垣民雄さん

競争相手が語り合う、こんな場がすごくステキだと思います。もっと多くの方が参加されるようにエコひいきをエコひいきしてもらえたらと思います。本日は本当にありがとうございました。

■事業を終えて

「過去の助成団体さんが、申請しようとしている新しい団体にメッセージを送る助成金の説明会なんて初めてだ！」「行政ではこのような説明会は企画できない」など帰り際に参加者の方から言葉をいただいた。一つの企画に2つの違う目的があり、参加者にも経験者と初めての方という2層があり、なんだか混沌とした中で、ただ一つ「エコひいき」というキーワードを共有し、自分に手繰り寄せる企画となった。過去の助成団体の方がまるで自分のもののようにならざるに、申請しようとしている方々に伝えている場面は、「とにかく一緒に地域をなんとかしよう」という熱い志が伝わり、場に一体感を感じた。短い時間のセッションだったので、消化不良の部分もあったが、〈エコひいき〉が単なる助成ではなく、人をつなぐしくみであること、を共有することができたと思う。

【ESD-T 担い手会議】

日 時：2007 年 4 月 18 日（木） 19 時～21 時

場 所：EPO 中部

参加者：天野、今枝、横田、古澤、村瀬、浅川、塚本、近藤、種村、川原、牧、遠山、新海、桜井、鶴飼、宇野 （15 人）

内 容

1. 事例調査について

天野さん、浅川さんが作成された HP 掲載用事例調査の報告と確認しました。また、EPO 中部の HP にリンクを貼ることを確認しました。そして、これらの情報をどう活用するかを話しました。

<調査事例報告>（詳細はHPに）

①清内路村と「週末清内人」

地元の方も外から来た方も分からないくらい和気あいあい。古民家を宿泊施設と使うなどして、都市農村交流がうまくできている。

②加子母総合事務所ふれあいのやかたかしも

若い世代・子どもたちの森離れは深刻な問題である。そこで、森に親しみをもち地域の文化を学んでもらうための取り組みが行われている。また、加子母村は合併したが、「加子母村らしいもの、教育等」を残したいという思いが強くある。

③長久手平成子ども塾

長久手町では長久手田園バレー事業が立ち上がっている。その子ども版が長久手平成子ども塾。町や町民が協力し盛り上げ、学校のプログラムを行うなど、年に 100～200 のプログラムを行っている。

④社会福祉法人 むつみ福祉会

障がいを持つ方が滞在したり、作業をしている。このような施設は理事に親になることが多いが、ここでは地域企業の社長など、いろんな方が理事になっており、より積極的に地元とつながろうという動きがある。祭に参加いただく企業も、資金集めのために協力いただくのではなく、一参加者として出店していただいている。地域の人たちがどんどん施設に入り、理解を広めようとしている。

⑤NPO法人 アスクネット(愛知市民教育ネット)

もともと小学校の先生を応援しようということになっており、企業とコラボレートしたり、「目的を持ち就職をしよう」という主旨の講座を開くなどしている。

⑥西春中学校 学校エコ改修事業 社団法人 地域問題研究所

民間の方が「自分の子どもが通う学校を何とかしたい！」と思い、環境省の民間の政策提言事業に応募したところからこの事業がスタートした。全国で 10 校モデルとして実践しているうちの 1 校である。学校施設をエコ化すること、またその活動自体を子どもの生きた教材とすること、などを目的に進めている。エコ化においては、環境教育とエコ建築の 2 本立てですすめており、地域の環境教育実践者の環境教育ワークショップや地域の建築士などといかに建物をエコ化するかというワークショップを実践したりしてきている。地域の拠点である学校をエコ化することで、地域の方や地域の請け負う企業と一緒に環境についての理解を深め、実践していくしくみづくりをすすめている。

⑦安城市環境アドバイザー養成講座

講座を通し地元で活躍してもらうことを目的に行っている。環境劇、田んぼの調査などを行っており、NPO を立ち上げる動きも出てきている。

⑧特定非営利活動法人 子ども&まちネット

子育てを支援している団体をネットワークしている中間支援団体である。個々の団体を調査し手に入る際にネットワークの必要性を感じたのが団体を立ち上げるきっかけである。子育てにおいては、「子どもを一人の人として接する」ことを大事にしており、この視点をまちづくりに活かしていきたいとの思いがある。

<事例調査結果をどう活用するかなど意見交換>

- ・事例調査を今後も続けていきたい。
- ・外の人がこの調査についてどう評価しているかを聞いて考えていきたい。
- ・まったくESDに関心・興味がない方へのきっかけにしたい。
- ・ESDを「個々のもの」から「つながる」へどう実現していくか。
- ・「ESDって何？」という方がまだ多い。
- ・実践している人たちが、「これってESDなの？」と思うだろうけど、いくつかの事例が重なってくると「これがESDだ」

と思えてくるはず。事例収集して見せていくことが大切。

- 仲間づくりだと思う。取材した方がこの会議に来てくれたらいい。取材したネットワークがツールボックス、人材バンクになっていく。
- 取材した団体に講座を案内するなど、つながっていく仕組みを作りたい。
- 5、10年後に再度取材をしては？その後の姿が見られる。
- 取材したことによって団体のプラスになるようなことが本当は必要。お互いをエンパワメントしたい。
→「取材を受け、元気になった」と伝えてくれる団体もある。何かの際には一緒に活動したいと伝えている。
- 取材した団体からいただいたコメントはHPに掲載していきたい。
- 取材した団体同士が何かを一緒にやるという発展もあるかもしれない。

2. 今後のESD-Tについて

- RCEと一緒にやっていくが、スピードが違っていたり、RCEがまだ何をするのか分からない。将来的には一つになる方向を個人的には考えているが、今ESD-Tが一気に一緒にになるのではなく、RCEに賛同した個々のメンバーが徐々に加わっていく形がよいと思う。
- RCEには個人で参加する。共生、協働して1+1が3になればよい。
- 4月1日までは「一緒にの方が効率がよい」ということで合意していたと思う。
- どちらが主導権をとるかや、ポリシーが違ってまた2つになってしまう、というのでは困ることもある。
- はじめは、取材を受ける側がESD-TとRCE両方から行われると混乱すると思った。RCEの掲げる学校、企業、行政、市民が組むということは、ESDを進める上で大切だと思った。しかし、キックオフした時が違うので、同一化しないほうがいいのかと思う。
- 4月1日のシンポジウムで、「どうしてESD-Tのままでいけないの？」と聞く方がいた。ESD-TとRCEの市民ネットワークでは、一緒にの部分もあるけど、そうでない部分もあるというイメージがあり、同一化するとESD-Tの部分で欠けてしまう部分ができるのが心配なのだ、と思う。
- RCEで3つのプロジェクトが立ち上がるので、好きな部分への参加で良いと思う。
- 4月1日のシンポジウムでは市民の顔が見えなかったのが、どう参加するかが見えなかったのではないかな。
- ふたつを別々にするとは言っていない。「ゆるゆるとつながりやってみましょう」という形がよいと思う。
- RCEとESDがあることでうまくいってないところはある？
→別々に動いているところはあるが、うまくいってないというのではなく、それぞれに役割があり、それぞれが地域に必要な活動をしている。実践する中で一緒にやったほうがよいことは一緒にやっていけばよいと思う。
- 申請書に団体を載せるのは形式だと思う。実際に動くのは団体でなく個人。
- 行政の縦割りが住民にまで影響している。そうでなく個人でつながろう！
- ESDは交流の場であって、意思決定の場ではない。ESDでは参加は自由。
- 始めはESD-Tを独立させたいと思っていたが、それは実際にみんなで決めていくこと。ESD-TはEPOとは別の市民のつながり。EPOは事務局をやってきたが、メンバーの意思でいずれ事務局を作っていければいいと思っている。どうなるかは今後の検討事項だと思う。
- 組織についてはおいとくとしても、プロジェクトでどうやっていくかを考えたい。
- 本物のESD活動を実践していくことが大切。
- ESDに関する市民の団体は今後もっと出てくると思う。それぞれの関わりを考えていたら大変。でも「目標は一緒」と信じ、それぞれの活動が地域で発展できるよう、差さえあっていかなければいけないと思う。

所感

「ESDとは何か」という疑問を持ちながら調査してきたことで、「取材先とつながっていく」「組織にこだわるのではなく本物のESD活動をしていく」といったことが、メンバーの中で徐々に見えてきたと感じました。自分たちが実現したいことを実現するための組織です。その組織づくりのために本来すべきことが見えなくなるのは…という意見もありました。取材した団体とゆるやかにつながり、学習会やイベントをつくりながら、必要な組織をつくる、必要なしくみをつくる力をつけていきたいと考えています。

【アースデイ愛知2007ブース出展】

日時 2007年4月21日(土) 22日(日) 10:00~18:00

場所 久屋大通公園エンゼル広場

ボランティアスタッフ 21日12名 22日10名

EPO 中部では環境省中部地方環境事務所と協働で、アースデイ愛知実行委員会が主催した「アースデイ愛知2007」にブースを出展しました。今年はEPO 中部のミッションである「パートナーシップが持続可能な地域をつくる」「次世代育成」「ESD の推進」のコンセプトを「ベビーアースデイ」というテーマで展開しました。アースデイは地球のために行動する日、赤ちゃんの時から地球のためにできることを実行しよう！地球大好きベビーをパートナーシップで育てよう！というねらいです。具体的には、あそび、語りかけ、スキンシップ、たべもの、セルフケア、自然出産、多文化共生など様々な切り口で実践者の話題提供やミニワークショップを用意しました。ゆっくりとくつろぎながら経験をお話し合える場をつくり、自由に持ち帰れる資料コーナーを設けました。またブースの前で青空書道をひらき、参加者の方にアースデイに感じたことを毛筆で力強く表現してもらい、展示するコーナーを設けました。

当日会場には、不安定な天気予報にも関わらず思ったよりたくさんのベビーとその家族がブースを訪れました。ブースの半分は靴をぬいでくつろげる場所になっていて、みなさん熱心にお話を聞いたり、ワークショップに参加したり楽しみました。ミニワークショップなどは赤ちゃんのいるボランティアの方にそれぞれ担当してもらいましたので、新しい出会いや交流が生まれました。普段 EPO 中部のオフィスには訪問する機会が作りにくい方々に、この取り組みを知ってもらった場になったと思います。

赤ちゃんが生まれ育つ事柄に高い関心を持っているのは、現在赤ちゃんを育てている人、出産予定のある方がメインですが、当事者だけでなく、社会の様々な分野の方が関わってこそ、地球を愛する子どもが育つものだと思います。アースデイだけでなく今後もみなさんと地球となかよしベビーの視点で持続可能な環境、地域づくりを提案していきたいです。



平成 19 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（2007 年 5 月）

【平成 19 年度 5 月事業報告】

平成 19 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（5 月）は、通常業務に加え、北陸での運営協議会の実施、事業を本格的にすすめるための会議の企画・運営実施などが主な業務となった。

【5 月事業報告】

5 月 8 日	エコひいき第一次審査会・運営事務局会議	新海・鶴飼
5 月 9 日	なごや環境大学交流会・講座・うごかそまい事業ミーティング	新海
5 月 12 日	NPO 法人森林の風 取材	新海
5 月 14 日	エコひいきブレーン会議	新海・鶴飼
5 月 15 日	名古屋市立大学成氏と ESD 打ち合わせ	新海・宇野
5 月 16 日	全労災審査会	新海
5 月 17 日	エコポイント事業打ち合わせ	新海・桜井・宇野
	ESD-T 担い手会議	新海・桜井・宇野
5 月 18 日	松下エコシステムズ絵画コンクール打ち合わせ	新海
5 月 20 日	なごや環境大学総会	新海
5 月 22 日	運営協議会メンバー審査会	新海
	ワールドコラボフェスタ打ち合わせ	新海・桜井
5 月 24 日	名古屋市立大学 ESD 勉強会	新海
5 月 25 日 *	北陸エリア運営協議会	新海・鶴飼
5 月 28 日	長野環境教育研修打ち合わせ	新海
5 月 29 日 *	「地球にやさしい学校づくり・人づくり」ー環境省モデル事業 学校エコ改修・環境教育モデル事業についてー エコひいき運営事務局 MTG	新海・鶴飼
5 月 30 日 *	政策提言セミナー評価会&地域社会底上げ交流会	新海・鶴飼

*は報告を掲載しています。

【6 月事業報告】

6 月 1 日	なごや環境大学「志」講座	宇野・鶴飼
6 月 2 日	なごや環境大学ユニー(株)講座	新海・桜井・宇野
6 月 3 日	RCE 準備フォーラム 小原村ワークショップ取材	新海・桜井 宇野
6 月 4 日	リコー中部(株)社長面談 エコひいき運営事務局会議	新海 新海 鶴飼
6 月 7 日	ESD-T エコライフフェア準備会	新海・桜井・宇野
6 月 14 日	ESD-T 担い手会議	新海・桜井・宇野
6 月 15 日	エコひいき最終審査会	新海・鶴飼
6 月 16-17 日	エコライフフェア	新海・桜井・鶴飼・宇野
6 月 19 日	なごや環境大学交流会	新海
6 月 21 日	エコひいきブレーンチーム会議	新海・鶴飼
6 月 24 日	ボランティアネイバース総会	新海・桜井・鶴飼・宇野
6 月 25 日	JICA 研修	新海
6 月 27 日	中部電力(株)環境学習キット選考会	新海・宇野

○今後の検討事項

*6 月以降の事業の進め方及び運営協議会提案事業の確定

【中部環境パートナーシップオフィス 5月月報】

5 月		来館者数 (相談・問合せ)	電話 (相談・問合せ)	相談・問合せ内容	スタッフ数
1	火	2 (2)	6 (5)		2.5
2	水	3 (3)	3 (3)		2.5
3	木				
4	金				
5	土				
6	日				
7	月			愛知県中小企業家同友会	1
8	火	14 (7)	8 (8)	エコひいき審査会&事務局ミーティング	4
9	水	14 (5)	7 (6)	なごや環境大学ミーティング	4.5
10	木	8 (3)	6 (6)		4
11	金	10 (5)	8 (7)		4
12	土	6 (2)	6 (5)		3
13	日				
14	月			エコひいきブレーンミーティング	1
15	火	5 (2)	9 (8)	名市大成先生との打合せ CSR ミーティング	4
16	水	6 (3)	6 (5)		3.5
17	木	20 (10)	15 (13)	中部電力エコポイント事業打合せ ESD-T 担い手会議	4
18	金	14 (7)	13 (11)	エコひいき PCM	3
19	土	5 (3)	8 (7)	東京出張	3
20	日				
21	月			志講座ミーティング	1
22	火	10 (6)	15 (13)	ワールドコラボフェスタ打合せ エコひいき運営事務局ミーティング	3.5
23	水	3 (3)	8 (7)		3.5
24	木	5 (3)	10 (9)	名市大 ESD に関する勉強会 HP 構成打合せ	4
25	金	5 (2)	10 (10)	北陸運営協議会	4
26	土	3 (2)	8 (7)		2
27	日				
28	月			長野出張	1
29	火	10 (3)	15 (14)	なごや環境大学ミーティング	4
30	水	25 (20)	10 (9)	環境政策提言づくりサポート事業講座	3.5
31	木	23 (20)	9 (8)		3
合計 平均		191 名/20 日 9.55/日	180 件,		73.5 人 3.1 人/24 日

ホームページアクセス数：16,093 件

【中部地区の環境関連団体の基礎資料の収集・管理】

* 5月期に収集した資料 行政関連：27 種 企業関連：1 種 NPO関連：33 種 その他：10 種 計：71 件

タイトル	年度	発行	備考
平成 19 年度 海上の森体験学習プログラム	2007	ムーアアカデミー（あいち海上の森センター）	A4 4P 日本語 2007 発行
里山のかぜ	2007	特定非営利活動法人マルベリークラブ中部	A4 1P 日本語 2007 発行
東京大学愛知演習林 平成 19 年度公開講座 森林を測る	2007	東京大学愛知演習林	A4 1P 日本語 2007 発行
矢作川 森の健康診断 千人基金のお願い	2007	伊勢三河湾流域NW内「矢作川森の健康診断千人基金」	A4三つ折 1P 日本語 2007 発行
第 20 回 日本の森と自然を守る会全国集会	2007	日本の森と自然を守る全国連絡会	A4 1P 日本語 2007 発行
愛知演習林 2006	2006	東京大学大学院農学生命科学研究科の森林教育研究センター	A4 8P 日本語 2007 発行
『子ども樹木博士』になりませんか！！	2007	エコミュージアムあいち	A4 1P 日本語 2007 発行
地球と遊ぼう。自然と話そう。	2007	愛知県ネイチャーゲーム協会	A4 1P 日本語 2007 発行
海上の森保全活用計画のあらまし	2007	あいち海上の森センター	A4 1P 日本語 2007 発行
ムーアアカデミー通信 SPRING 第 2 号	2007	あいち海上の森センター（ムーアアカデミー）	A4 4P 日本語 2007 発行
緑と水の通信 第 90 号	2007	ナチュラリスト敦賀 緑と水の会	A4 8P 日本語 2007 発行
「国際生物多様性の日」記念イベント	2007	環境省・愛知県・名古屋市	A4 1P 日本語 2007.5 発行
ARRC NEWS No. 9 2007.3	2007	独立行政法人 土木研究所 自然共生研究センター	A4 8P 日本語 2007.3 発行
雑木林 2007 年 5月号 Vol.198	2007	豊田市自然観察の森	A4 4P 日本語 2007.5 発行
これか正しい「ビオトープ」Part 2 生物多様性を守る具体的な方法	2007	日本ビオトープ管理士会	A4 1P 日本語 2007.5 発行
第 2 回 ため池シンポジウム in あいち 2007 のお知らせ	2007	第 2 回ため池シンポジウム実行委員会	A4 1P 日本語 2007 発行
雑木林 2007 年 6月号 Vol.199	2007	豊田市自然観察の森	A4 4P 日本語 2007.5 発行
がらぼうだより Vol.132	2007	NPO 法人 ガラ紡愛好会	B4 4P 日本語 2007.5 発行
2007 夏の緑化隊募集！ 内モンゴル砂漠緑化ツアー	2007	国際環境 NGO FoE Japan	B5 1P 日本語 2007 発行

豊かな地球を次世代に引き継ぐために スマートライフすごロク		三重県津地方県民局生活環境森林部	A4 2P 日本語
OSU ECO MAP 大須エコマップ	2007	名古屋市環境局地球温暖化対策室	A2 八つ折 1P 日本語 2007.3 発行
「大須へエコみゃー歩こみゃー」まち歩きワークシ ョップ<2007 春>	2007	環境デーなごや 2007 実行委員会	A4 1P 日本語 2007.5 発行
活動テーマ別 グリーンマップガイド	2007	グリーンマップあいち	A4 40P 日本語 2007.3.31 発行
地球にやさしいお買い物ごっこ やさしい工夫と 品物をお店で見つけよう！	2007	緑生涯学習センター	A4 1P 日本語 2007.5 発行
「レッツトライ！環境教育」part2	2007	なごや環境大学（浅野智恵美 環境カ ウンセラー）	A4 1P 日本語 2007 発行
県民エコライフ大作戦	2007	石川県	A4 4P 日本語 2007 発行
eco-T エコット 豊田市環境学習施設 リーフ レット	2007	eco-T エコット 豊田市環境学習 施設	A4 三つ折 1P 日本語 2007 発行
温度計シール	2007	財団法人省エネルギーセンター	B7 1P 日本語 2007.4 発行
LOVE・アース・ふくい News	2007	福井県地球温暖化防止活動推進委員	A4 4P 日本語 2007.2.28 発行
犬山里山学センター リーフレット	2007	犬山市	A4 三つ折 1P 日本語 2007 発行
援農・就農者支援講座「農業塾」	2007	NPO 法人犬山里山学研究所	A4 1P 日本語 2007 発行
四国 EPO を活用して情報発信しませんか？	2007	四国環境パートナーシップオフィス （四国 EPO）	A4 1P 日本語 2007 発行
しこくえぼ そのいち 07/4/10	2007	四国環境パートナーシップオフィス （四国 EPO）	A4 1P 日本語 2007 発行
四国 EPO リーフレット	2007	四国環境パートナーシップオフィス （四国 EPO）	A4 三つ折 1P 日本語 2007 発行
平成 19 年度 環境月間県民のつどい	2007	愛知県	A4 1P 日本語 2007 発行
しらべて発見！身近な環境	2007	愛知県環境調査センター	A4 1P 日本語 2007 発行
できるエコ！DECOスクール	2007	愛知県青年の家、株式会社デンソー	A3 四つ折 1P 日本語 2007 発行
ECO STATION	2007	県民エコステーション	A4 四つ折 1P 日本語 2007 発行
『地域環境教育プログラム集』『環境教育ガイド』 のご案内	2007	富山県生活環境文化部環境政策課	A4 1P 日本語 2007 発行

とやま帰農塾開講 2007	2007	富山県・富山市・魚津市・氷見市・南砺市・朝日町	A4 1P 日本語 2007 発行
ESD をはじめる×すすめるための10のヒント	2007	環境省	A4 4P 日本語 2007 発行
地球環境と生き方セミナー in 名古屋	2007	松下ヨガ学院	A4 1P 日本語 2007.4 発行
ぼらんぽ 2007 年5月号	2007	なごやボランティア・NPO センター	A4 8P 日本語 2007.4 発行
スタディツアー 合同説明会	2007	なごやボランティア・NPO センター	A4 1P 日本語 2007.4 発行
初めての人のための NPO 入門講座「踏み出そう！はじめの一步」	2007	なごやボランティア・NPO センター	A5 1P 日本語 2007.4 発行
ボラみみ 2007 April No.86	2007	(特定) ボラみみより情報局	B5 14P 日本語 2007.5.1 発行
スキルアップ講座 (momo トレ) 開催のお知らせ	2007	コミュニティ・ユース・バンク momo	A4 1P 日本語 2007.4 発行
2007 年度 たまり場	2007	名古屋 YWCA	A4 1P 日本語 2007.5 発行
広報力 UP セミナー	2007	愛知県レクリエーション協会	A4 1P 日本語 2007.5 発行
チャールズ・オーバービーさん 名古屋講演会	2007	共同研究「女性科学者のリーダーシップ」グループ	A4 1P 日本語 2007.5 発行
「九条の会」アピール	2007	九条の会	A4 1P 日本語 2007.5 発行
自転車マップ 愛・地球博 VERSION	2007	愛・地球博 まち・ウェルカム連絡会 自転車部会	A4 1P 日本語 2006 発行
自転車マップ 愛・地球博 VERSION02	2007	愛・地球博 まち・ウェルカム連絡会 自転車部会	A4 1P 日本語 2007 発行
地域デザインスクール	2007	なごや環境大学	A4 1P 日本語 2007 発行
「大須へエコみゃー歩こみゃー」まち歩きワークショップ 2007 春	2007	環境デーなごや 2007 実行委員会	A4 1P 日本語 2007 発行
「人にやさしい街づくり教育」各種教材のご紹介	2007	愛知県建設部建築担当局指導者街づくりグループ	A4 1P 日本語 2007 発行
環境白書	平成 18 年版	環境省総合環境政策局環境計画課	A4 280P 日本語 2006.5.31 発行
九州地域におけるパートナーシップに基づく企業の環境保全 CSR に関する調査 事例集	平成 18 年度	環境省 九州地方環境事務所	A4 62P 日本語 2007.3 発行
こども環境白書	平成 18 年版	環境省	A4 42P 日本語 2006 発行

NPO 法人の財政状態及び会計処理の現状について	2007	愛知県県民生活部社会活動推進課	A4 28P 日本語 2007.4 発行
市民活動団体と行政が共に行う研究ワークショップ事業 協働の手引書作成への基礎がため事業報告書	2007	名古屋市（担当課 市民経済局地域振興課）	A4 32P 日本語 2007.2 発行
「第 12 回人にやさしい街づくり賞」	2007	愛知県	A4 20P 日本語 2007.3 発行
「人にやさしい街づくりの推進に関する条例」のあらまし	2007	愛知県	A4 8P 日本語 2007 発行
環境教育ガイド 訪ねてみよう、体験しよう！ とやまの環境学習施設	2007	富山県	A4 48P 日本語 2007 発行
自然共生研究センター活動レポート 平成 17 年度の成果から	2007	独立行政法人 土木研究所 自然共生研究センター	A4 18P 日本語
みんなで考えよう!! わたしたちのまちづくり	2007	財団法人 いしかわまちづくりセンター	A4 30P 日本語 2001.3.31 発行
みんなで考えよう!! わたしたちのまちづくり手引書	2007	財団法人 いしかわまちづくりセンター	A4 30P 日本語 2001.3.31 発行
古今金華	2007	ぎふまちづくりセンター	B5 46P 日本語 2007 発行
環境経営報告書 2006	2006	松下エコシステムズグループ	A4 20P 日本語 2006.9 発行
日経エコロジー eco June2007	2007	日経 BP 社	A4 124P 日本語 2007.5.8 発行
きずきあう 平和と非暴力の文化	2007	平和文化	A4 64P 日本語 2007.5.15 発行

【主な事業報告】

【2007 年度 EPO 中部北陸エリア運営協議会】

日 時：2007 年 5 月 25 日（金）10：00—12：00

会 場：石川県庁 行政庁舎 202 会議室

出席者 千頭氏（EPO 中部運営協議会会長） 三国氏（北陸大学教育能力開発センター）

本田氏（環境教育ネットワークとやまエコひろば）

北野氏（（財）いしかわ環境パートナーシップ県民会議） 吉川氏（NPO 法人エコプランふくい）

森氏（富山県環境政策課） 新氏（石川県環境政策課） 阪本氏（福井県環境政策課） 梅田氏（環境省中部地方環境事務所）

新海（EPO 中部）

事務局：後藤氏（環境省中部地方環境事務所） 鶴飼（EPO 中部）

欠 席：水上氏（北陸経済連合会）

<議 事>

- 1) あいさつ 梅田氏（環境省中部地方環境事務所）
- 2) 自己紹介
- 3) 近況事業&協働事業の紹介
- 4) これまでの EPO 中部の事業紹介、今年度予定事業
- 5) 意見交換
北陸地区で EPO 中部を活用した協働事業について
 - i) 県と NPO の協働事業について
 - ii) 県の協働事業の可能性について
 - iii) 今年度北陸地区で EPO 中部を活用して実施する事業について
- 6) 閉会あいさつ

《記 録》

【近況事業&協働事業の紹介】

ファシリテーター：千頭氏

昨年度は年 2 回の運営協議会を実施した。EPO 中部の事務局が名古屋にあるため、EPO スタッフは北陸地域のお付き合いが従来なくて、昨年度は事業を通して少しずつ関係性を育んできた。今年度は北陸エリアでのパートナーシップ促進を戦略的にすすめたい。早めにお会いして情報交換・事業を検討したいということで今日の場が開かれた。7 月くらいに全体で集まる正式な第 1 回運営協議会、第 2 回を年度末に北陸で実施したい。

三国氏：国土交通省と連携して、子どもたちの目線で自転車と歩行者の視点から道路環境を改善していくということをやっている。またこれの延長上にできた、地球温暖化防止を目的としたエコサイクルプロジェクトをおこなっている。この事業は、参加者期間中、自転車やバス、電車といった公共交通機関のみを使って移動するというものである。参加者は自転車の利用時間や距離などを報告。10 週間という期間の中で、エントリーした人の移動距離を、車で移動した場合の CO2 排出量に換算する。昨年の参加者は約 400 人だったが、今回は倍以上の約 1,000 人。主に金沢市とその近郊に住んでいる方や県内の企業や学校単位で参加している。国土交通省、石川県、金沢市から財政的支援を受けている。年間予算約 100 万円のうち 30—40 万円企業の協賛金である。お金の面では企業の協力が多く、参加者はやりやすい力を出し合うような形ですすめている。事務局は地球の友が担っている。環境省中部地方事務所の後援も得ている。バスレーンに自転車走行ゾーンを 歩行者と自転車の接触事故をいかに減らすか、歩道上で厳しくとりしめし、自転車走行ゾーンのあり方を探っている。今は順調だが今後実験を重ねて、最終的にどうするかを決めることとなる。市民提案で交通政策を変えるというタイミングである。

門前というエリアでの風力発電を市民で立てることを考えている。北海道の実績から学んだ。風車の目的は温暖化防止。できるだけクリーンな自然エネルギーの普及をしたい。先般の地震があった場所で地元の企業と地元の市民が風車を守っていく活動をしたい。北陸で市民風車は初めてだが支えていきたい。1 基 5 億円ほど。補助金がでるかでないかしたい。エネルギーを使うばかりの生活。風車は風が吹けばエネルギーをつくってくれる。富山の本田さん、福井の吉川さんとも連携したい。

新氏：石川県では行政・企業・市民の協働事業を進めることを目的に「いしかわ環境パートナーシップ県民会議」をつくり、各主体が集まって事業を展開している。協働事業の具体的事業は県民会議が実施している。例えば、事業費の補助金制度、人的派遣など、県は県民会議の事務をバックアップしている。協働事業の新しい企画をモデル的に動かし、継続的に実践ができる段階に至ると県民会議に移すという連携ですすめていく検討し、うまくいきそうだとおきに県民会議が継続的に実施していくという連携をとっている。

具体的事業としては、産官学民での環境連携活動フォーラムを実施し、事業者とNPOのお見合いの場をつくった。130社ほど参加しNPOの活動紹介の場をつくり、企業の興味のある連携活動をまわるという機会をつくった。お見合いの成立はまだ見えていないが、継続的に集まる機会や芽がありそうなところをコーディネートしてすすめていきたい。地元の金融機関にも積極的にすすめている。すすめるための基盤として、簡易版の石川県版ISOをつくる予定でいる。事業者もNPOも使える企画（石川県版ISO）を作る予定だ。PDCAで計画・評価・改善、パフォーマンスの確保を実行するために、NPOに環境行動計画書を作成していただき、ISOに登録していただく。事務は県民会議が行い、審査は会員である環境カウンセラーズ石川が担う予定でいる。企業側が、公表されたNPOの活動などを見て組める相手を見つけられるような環境をつくる。

企業からは、NPOにはなじみがなく、どういう活動をしていて、パフォーマンスがどのように返ってくるのかということがわからない、一緒に組んでやろうと踏み切るのにハードルがある、といった意見をいただいている。その起爆剤として、県民エコライフ大作戦という事業を実施した。

北野氏：県民会議には石川県内のすべての市町が入っている。50会員ほど。個人会員430名ほど。事業者・NPOは105程度登録している。人的にも財政的にも限られているので会員の方の事業を中心にすすめている。6月2・3日に県民エコステーション祭りを開催予定している。NPOの会員の方に企画の段階からはいただいて、ブース10程度をだし環境活動展示をするなど、祭りを実施するということを前提にしている。金沢大学の学生、事業者も関わっている。すべて会員の皆さんを活用しての事業展開であり、県民会議は団体の運営のサポートをしている。

具体的な事業としては以下を実施している。

エコクッキング事業：会員の中でメニューをつくっていただき省エネ省資源廃棄物削減ですすめている PRを会員の方と一緒にすすめる

エコドライブ事業：自動車学校で教室を開いてエコなドライブ方法を伝えひろげる

キッズ環境教室：地球温暖化防止活動推進員の方に講師を担っていただく教室

環境省がすすめている一村一品事業の展開について検討しているところである。

阪本氏：グリーン購入・地球温暖化防止・ISOネットワークをテーマにした市民と一緒に事業をすすめる事務局が行政内にある。行政が立案・運営に関して対応している状態である。今後会員とのパートナーシップで運営できるようにしたいと考える。県で実施している事業

1) 16-18年 環境向上プロジェクト

各団体に協働事業の企画提案していただき県が支援する制度。単なる助成ではない。活動していただき最後に報告をかねた発表会をしている。NPO団体を中心に事業費をあて協議会を実施している。1年目は6割程度お膳立てをして状態で市民団体に委託して事業した。2-3年目は、行政のサポートは1割程度になった。少しずつ一緒に任せている。

2) ラブアースふくい

福井県の環境県民運動である。我が家のわが社のエコ宣言として表現し、メディアからのアプローチをしてもらっている。

森氏（富山県）

NPOと協働で以下の2つ環境教育に関する冊子を作成した。作るにあたり行政が勝手につくるといふこれまでの状態から一緒につくるといふことで協働事業としてすすめてきた。

1) 環境教育ガイド

施設の紹介をする際に県民の視点を入れることができた。公的機関の施設、例えばゴミ処理場や下水処理場という施設を紹介する際に、おもしろい発信をしようということで、県民の違う視点で作成した。

2) 環境学習プログラム集

NPOに声をかけて地元のプログラムを収集した。前の年に子ども向けを作成したので、今回は地域に根ざすというコンセプトでNPOの活動実績を表現した。

2冊を作成するプロセスで、NPOのネットワーク、ノウハウ、専門性が役に立った。また行政とNPOの認識の違いを痛感した。特にガイドブックは掲載する行政機関の理解を得ることが非常に難しかった。個人的には初めて環境教育に携わり初

めて NPO に出会った。NPO と協働するチャンスを得ていないというのが行政の現状だと考える。

富山県にはとやま環境財団という富山県が出資している財団があり、非常にいしかわ環境パートナーシップ県民会議とカタチが似ている組織がある。県民・NPO・事業者と草の根からやっていこうということで平成3年に始まった事業である。県からの委託事業も多く、職員数など人的資源の不足で大変な状況にある。富山県の地球温暖化防止活動推進センター、エコアクション21事務局も担っている。新規事業としては環境とやま県民会議の実施やエコライフ・アクト大会など富山でパートナーシップを作っていくためにエコライフという広いテーマ実施する。財団に事務を依頼し、6月の環境月間に立ち上げをする。

富山県としては財団に経済的支援をしながら財団と連携し、行政でなければ進められない点は行政が担い、各主体の連携強化意識向上をはかっていく。

吉川氏（エコプランふくい）

福井市との協働事業として家庭版 ISO を実施している。エコプランふくいが提案して福井市環境パートナーシップ会議が受け止め5年目になる。運用に関して委託を受けている。

福井県の地球温暖化防止活動推進センターの委託事業を実施している。また鯖江市の環境学習センターに小学生の環境学習プログラムの講師派遣をしたり、一村一品事業を進める中で、鯖江市、敦賀市と温暖化防止活動の連携を発展させる状況である。

企業との協働として温暖防止活動の事業化をすすめていきたい。当初は太陽光市民発電所の実現を目指していたがイニシャルコストの回収が難しい。次に考えたのは市民協働節電所。いわゆる小規模の ESCO 事業である。企業と連携し市民の出資で進めていきたい。これからの課題は企業との協働。事業の中でやっていきたい。

県がすすめている協働としてメディアとの連携事業がある。地球温暖化防止に関する予算がついている。将来的には本来の NPO 活動とメディアの連携に発展させたい。予算がついているものを成功させて発展させたい

本田氏（とやまエコひろば）

たんぼの学校を実施している。これは自然農を推進する事業であり、その中で農をとおして地球環境のことを考えるというプログラム、たんぼをフィールドにした環境教育を実践している。これまで農と環境教育の連携がうまくいっていなかった。農作業と環境学習プログラムが合致していないという課題のもと今年は改善していきたい。

グリーンツーリズムとやまという事業を農水省の事業として実施している。各地域の特徴を活かしたプログラムへの参加を県外から募る。都市部の関心のある人を集めてスタートさせる。

行政との協働事業を実施して 委託、補助事業をして、委託する側される側の上下関係、業者委託と同じような扱いを感じる。責任を全うするために協議をするが、対等という関係がどこまでできるのかという点が課題だと考える。また協議だけでなく成果を形にする際に、ガイドについては施設の協力依頼や担当者に参加していただく依頼は行政が声をかけるという役割分担をした。最初の部分は委託の契約には入っていない。協働事業としてはその部分がとても大事であった。協働協定を結んで最初からきちんとする。金銭的な協働契約を結んですすめていくという双方で検討しないといけない状況である。パートナーシップとしても協働契約・協定について検討していくことが重要だと考えている。

【これまでの EPO 中部の事業紹介、今年度予定事業】

PP を活用して昨年度の事業報告、今年度実施予定の事業を紹介

【意見交換】

* 協働事業をどう進めるか。

千頭さんー愛知県の東海市の例ですが、今年度公募してどう予算請求をしたらいいかも検討し、次年度事業をすすめるという、準備段階からの協働事業を進める予定である。そのように単年度ではなく時間をかけて進める方法もある。

本田さんー富山県も今年から変わり、今年度実施するものと来年度実施するものを募集しました。

吉川さんー行政と NPO 双方から協働事業を提案して該当する NPO・行政がテーブルを設けて実施していくというしくみをもっている。ただ、それは市民協働推進課が実施しており、環境政策課ではそうっていない。県全体に進め方がいきわたっていない

三国さんー事業として承認することにはなっているが、マニュアルどおりに必ず合わせないといけないというものではないだろうか。課長レベルでの決裁はできないのだろうか。

新さんー地域によって違うが課長レベルで決裁がおける場合もある。

三国さんー少ないお金のために苦労するのは大変だ。それなら企業の方がよっぽど楽である。企業の中で何社かが組んで、地元企業の環境担当との人間関係で地元の環境のために金を出すというスタンスですすめられたらいい。

千頭さんー企業からお金をとるのはむずかしいのではないだろうか。

三国さんー人間関係と実績をみせていくしかないだろう。

千頭さんー相乗効果で進められたらいいが、お互いに違うのでスタート時は非常に大変だと思う。

*具体的な展開について

三国さんー皆さん忙しく手一杯でやっている中、新しいことをやるのは大変である。今まで話を聞いてきたが EPO 中部の事業は環境教育のプログラムが非常に多く、それらは皆さんも地域で同じようなことをやっており、新しいことが増えたようである。知識は蓄積されるかもしれないが、どれだけ地域のためになっているかを考えると、断片的な事業が多く地域のためになっていないように思う。

皆さん忙しい中で、これ以上仕事を増やしていくことは申し訳ない。今みなさんの実施している事業を EPO を活用してより展開できるようにしてはどうか。

新さん : 企業と NPO の連携お見合い事業である環境連携フォーラムには、リコー中部(株)やユニー(株)などの EPO 中部からの提案企画をうまく活用することができた。

三国さん : まず現場を知り何が地域で課題なのかを明確にして、北陸から取り組めるプロジェクトを提案し、そこへ EPO 中部に協力してもらう形ですすめることが継続して続けるために重要だと考える。

新さん : 運営協議会、メンバーと EPO 中部との関係をうまく事業に活用してはどうだろうか。また 3 県がそろい、しかも行政と NPO がペアになっている状況を北陸で生み出すことはこれまでできなかった。まずはお互いを知るところからスタートだと思う。

新海 : それぞれが持ち寄って強み弱みを補完しあい、それぞれがラクになる、最初はエネルギーを投入するかもしれないが、協働することで事業が膨らみ、それぞれのリスクや負担が軽くなるような形を一緒につくっていききたい。

三国さん : 「パートナーシップ」ということに特化すると形だけになる。大事なことは「北陸の地域が良くなること」で、そのために、手段として「パートナーシップ」を使うのである。

梅田さん : 具体的にリコー中部(株)やユニー(株)との関係が出てきたことはよいと思う

北野さん : 全国的に進めなければいけないことと併せて、地域に独自の事業を見つけてやるのが大切だと思う。

千頭さん : 各県、各 NPO が共通で抱えている課題を確認していく作業が必要ではないか。それを乗り越えられるような具体的な動きを作るという意味で、エコひいき（企業と NPO をつなぐ事業）みたいな事業展開が重要だと思う。

阪本さん : NPO などから地域にこのように課題があるといったことを聞けるという場があることがいい。

新さん : 全国的に進んでるかどうかといった外部評価をほしい。EPO 中部からの評価をもらえると。

新さん : 政策立案から全部行政が行っている。今後財団等の組織を軸にできる人がやっていくことが重要である。提案能力はまだまだないが少しずつついている。今後民からの政策提言事業のようなことが考えられるかもしれない。行政の役割は最終的にはコーディネーションとなるであろう。

森さん : 何か特化する事業ではなく、いろんなジャンル、広い情報を EPO 中部に発信していただきたい。ESD がまだ何か理解していないのでいろいろ教えていただきたい。

北野さん : NPO の事業を、NPO 同士が集まって行う事業を後押しできるしくみがいいのではないかな。

新さん : NPO 同士の協働はむずかしい。

本田さん : パートナーシップ支援の形としては、ノウハウの交流して運営していくことが可能かもしれない。

北野さん : 予算はあちこちからきているのでどのようなまとまりでやっていくのが問題だと考える。

千頭さん : 3 県で協働事業は可能だろうか。

吉川さん : 民間が進めている環境教育ミーティングを 3 県で実施するという可能性はある。今はまだそこまで行えるの NPO や連携がない段階である。

千頭さん : 北陸でどういう動きがあるのかを知る情報交換会の実施はどうだろうか。

- 新さん : エコひいきの事業を突破口として、金沢信金さんの事業につなげることを考えている。
- 三国さん : やはり今行っている事業を拡げる、転換させていくという手法がいいのではないかな。
- 新さん : そのためにも情報交換の場が必要である。行政だけではだめ。温暖化防止活動推進センターのように、情報交換をする場が意味があるのかもしれない。
- 梅田さん : 中部ブロックで各温暖化防止活動推進センターが一村一品事業を行っている。
- 三国さん : 各地の温暖化防止活動推進センターがどのように実施しているのか、どれだけ成果が出ているか等を聞きたい。
- 梅田さん : センター自体は手いっぱいではない状況にある。
- 千頭さん : それぞれの事業を、EPO を活用しながら、軌道修正したり、他と連携したりして、よりいい活動を行っていかれたらと思う。リコー中部(株)とユニー(株)の事業は地域をつないでいる事業である。うまく活用したい。
- 新海 : 運営協議会からの提案事業なので、みなさんが使いたいと思える方法で実施していきたい。
- 吉川さん : 地域の活動を盛り上げる必要がある。その意味で一村一品事業の県内での活動報告を実施したいと考える。例えば温暖化防止活動推進センターにしても、地域の特色を持った温暖化防止活動を交流し、何ができるのか、北陸の中で交流していくことが意義があると思う。
- 新海 : 発掘された人をつなぐことは重要である。
- 三国さん : 環境税はどうなっているのだろうか。地域の環境を良くするためにそういうところで行政と一緒にやっていくことはできないだろうか考える。環境に行動した人に何かインセンティブを与える手法の展開は？
- 千頭さん : 環境税、「税」というのは別の名前を使ったほうがいいかもしれない。例えば愛知では水道基金が導入されていて、上流域森林の手入れに使っている。森さんが言われた ESD については、地域のやり方を活かして地域の固体を見つけていくこと自体 ESD 的学びの仕方だと思う。
- 梅田さん : いろいろ出していただいた意見をもとに検討していきたい。
- 千頭さん : 今日はお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございました。

【所見】

昨年度に引き続き、今年度もエコひいきおよびユニー(株)の環境学習事業の北陸展開に力を注ぎたい、さらにこの2つの事業を活用して、北陸エリアでの広域での協働モデル実験ができないかと考える。今年度から運営協議会のメンバーに各県の担当者に入っていただき、行政と NPO、さらに北陸経済同友会の情報提供の機会を増やし、協働事業を生み出していきたい。今回は第1回めということで、それぞれの県の協働の現状を共有する場となった。それを踏まえ、EPO 中部としてすべきことを今後検討し、アクションにつなげていく。

【「地球にやさしい学校づくり・人づくり」ー環境省モデル事業 学校エコ改修・環境教育モデル事業についてー】

日 時 2007 年 5 月 29 日（火） 午後 2 時～午後 4 時 30 分
場 所 名古屋ダイヤビルディング 2 号館 4 階 241 会議室
主 催 社団法人地域問題研究所
後 援 環境省中部地方環境事務所
参加者数 約 30 名

趣 旨

環境省の学校エコ改修・環境教育モデル事業は、学校、地域住民、事業者が参加する勉強会からスタートして、実際の改修事業の推進や改修と連携した環境教育を行うユニークなものです。 ※（<http://www.ecoflow.jp/>参照）社団法人地域問題研究所は平成 17 年度から本年度（予定）まで、このモデル事業の推進について北名古屋市から調査受託し、西春中学校を対象とした事業の推進を支援してきました。今回、この社団法人地域問題研究所が手がけた事業に関する講演および報告会に参加し、事業の目的としている環境にやさしい学校づくりとはどのようなものか、学校空間の活用と環境教育の可能性について学ぶ機会となりました。

内 容

①講 演：「身近な環境空間としての学校と環境教育の可能性」（午後 2：00～3：30）
武蔵工業大学環境情報学部教授 宿谷 昌則氏 ※別途資料参照

②報 告：北名古屋市立西春中学校における取り組みについて（午後 3：40～4：00）
元愛知工業大学教授 曾田忠宏氏
北名古屋市学校教育グループ 桜井健司氏

③環境省モデル事業 19 年度モデル校募集について（午後 4：05～4：15）
環境省中部地方環境事務所

④質疑応答：

・「地域とのつながりはどのようになっているか」

回答：自発的に関わる人はいないが、店主など求めれば意見を出してくれる。

・「環境学習センターは地域に開放されるものか」

回答：夜間を地域で利用できるようにする、残飯などの堆肥づくりに参加してもらう、木の剪定などで地域の
の人に先生になってもらうのが理想

・「今回の総事業費は？」

回答：8 億 5 千万円

・「トータルに CO2 削減になっているか」

回答：エネルギー特別会計で担う。減らすのが前提となっている。

・「エコ改修というより省エネ改修といったほうが的確では」

回答：建物は断熱構造になっている。これはエコロジー発想である。

所 感

講演では、人は 1 日のほとんどを建物の中で過ごしていることから、建物環境というのが人にとってもっとも身近な環境空間であるとの認識に立ち、環境にやさしい建物とはどういうものか、自然のポテンシャルを生かす住まい方を考える住環境教育を受けることができた。建物の振る舞いを知り、手入れをしていくこと、身近なことから地域へとつなげ、ひろげていくものであるということ、一步一步できることからやっていこうという話に ESD の取り組みに参考になる考え方として共感を得た。西春の事例からは、学校改修に向けたプロセスを丁寧に積み上げることのためのデザインや意義について学ぶができた。ワークショップを積み上げながら、地域にある学校として、エコ改修を考え、最終的に 5 つのグループがアイデアを出している。これはかなり大変だったそうだが、そこで獲得した学びの経験も大きく、地域に広がっていくものと感じている。プロセスを一緒ににつくりあげること、地域の学びの場を共ににつくりあげていくことで、建設後もパートナーシップで地域の教育力がつくりあげられることと思う。

【環境政策提言づくりサポート事業 第4部 評価会&地域底上げ交流会】

EPO 中部では、環境省が実施している「NGO/NPO・企業環境政策提言事業」を受け、昨年度から環境政策提言づくりサポートを実施してきた。今回は最終回として、評価会&地域底上げ交流会を行なった。環境省から平成18年度応募のあった提案についての報告、この地域から「優秀に準ずる提言」に選ばれた NPO 法人地球の未来代表理事駒宮氏の報告、さらに今後についての意見交換をした。

日 時	2006 年 5 月 30 日（金）18:30-21:00
会 場	環境省中部環境パートナーシップオフィス
ゲスト	環境省総合環境政策局民間活動支援室 今井 正之さん
	特定非営利活動法人地球の未来 代表理事：駒宮 博男さん
参加者数	18 名

●プログラム

◇あいさつ

◇報 告 平成18年度環境政策提言 優れた提言事業発表 環境省総合環境政策局民間活動支援室 今井 正之氏

◇プレゼンテーション 平成18年度 優秀に準ずる提言発表

「チーム50-50 結成とレシート等へのCO2 排出量表示運動に関する提言」

特定非営利活動法人地球の未来 代表理事 駒宮 博男氏

◇交流セッション 「チーム50-50」の可能性を追う！話題提供 駒宮氏

◇意見交換 環境政策提言事業を考える &ゲストからのコメント

●報告：平成18年度環境政策提言 優れた提言事業発表

環境省総合環境政策局民間活動支援室 今井 正之さん

平成18年度応募総数は51件。透明性を確保し政策提言推進委員会を設け、7つの基準、1) 必要性・緊急性、2) 現状の把握的確性、3) 先駆性・新規性、4) 有効性、5) 説得性、6) 実現可能性、7) パートナーシップ形成・促進の可能性・役割分担の明確化、により審査が行われた。その結果、「優秀提言」1件及び「優秀に準ずる提言」4件を選考した。また今年度はトラブルのため追加選考し、「優秀に準ずる提言」が5件となった。平成18年度の優秀提言に選ばれたのは、以下である。

【優秀提言】

多主体連携による家庭版 ESCO スキームを用いた家庭部門の省エネルギーの推進

〔株式会社 びわこ銀行／滋賀県電器商業組合／財団法人 地球環境戦略研究機関〕

行政機関、金融機関、地域の家電販売店の連携により、地域密着型の家庭向け省エネ・ESCO サービスの提供、ESCO サービスと連動した省エネ機器買換ローンの提供、そのローンへの利子補給などを組み合わせた新たな「家庭版 ESCO 実施スキーム」を構築し、家庭部門における抜本的な省エネルギーを推進する。

〈評価〉新規性・実現性・有効性が高い、3者の協働により実現可能性が高い、家庭部門での省エネ対策等に寄与する

【優秀に準ずる提言】

①地域の持続性指標の作成とそれを活用した地域持続性オンブズマン制度の創設 〔特定非営利活動法人 環境文明21〕

「環境」「経済」「人間・社会」側面から地域の持続性を図る指標を作ると共に、それを活用して地域の持続性をチェックしつつ、地域の持続性向上のために議会に対して報告・勧告し、行政の実施体制の強化や制度改革を促す機能を持つ「地域持続性オンブズマン制度」を創設する。

②チーム50-50 結成とレシート等へのCO2 排出量表示運動に関する提言 〔特定非営利活動法人 地球の未来〕

2050年にCO2 排出量50%削減を目指すチームを結成し、できる限り多くの商品、またはレシート等にCO2 排出量表示を推進するための活動を行う。これにより、消費者が日常生活におけるCO2 排出量を意識することが可能と

なるとともに、参加企業の活動のアピールにもつながり、地球温暖化防止のための活動を活発化させる社会的インフラを構築する。

③日本、中国、韓国の3カ国におけるCO2 ダイエット宣言の実施とプログラム型 CDM を活用した国際協力の推進
〔財団法人 地球・人間環境フォーラム〕

家庭での省エネと緑化を結びつけた温暖化防止活動「CO2 ダイエット宣言（事務局：東京電力㈱）」を中国、韓国でも実施し、三カ国共同のキャンペーンとして普及させる。また、ライフスタイルの変化を促す活動の成功ノウハウを「プログラム型 CDM」の枠組みを活用し、中国等に展開することで、温暖化防止の国際協力を推進する仕組みを整備する。

④環境影響評価制度における市民参加モデル

〔財団法人 世界自然保護基金ジャパン／特定非営利活動法人 市民がつくる政策調査会〕

現行の環境アセスメント制度にもとづく市民・NGOの参加事例の調査に基づき、新たな戦略的環境アセスメントを含め、環境アセスメント制度における市民・NGO(利害関係者等)の参加の仕組みについて、市民・NGO参加の視点から示し、専門家、行政関係者と意見交換を行うことにより、市民参加モデルの構築を目指す。

⑤地方自治体による京都メカニズムへの参加

〔有限責任中間法人 イクレイ日本〕

京都議定書に定められた温室効果ガス排出削減目標6%の達成のため、わが国の地方自治体が保有する廃棄物処理・上下水道等における温室効果ガス排出削減技術や、サービス供給システムの経験やノウハウを途上国自治体へ技術移転を行い、わが国の地方自治体によるクリーン開発メカニズム事業への参加と当該技術導入に基づくクレジットの獲得を行う。

応募提言は以下の4つの形で社会に還元し、政策に反映されるように働きかけられる。

- ①「NGO/NPO・企業環境政策提言フォーラム」の開催
- ②提言実現に向けてのフィージビリティ調査の実施
- ③「NGO/NPO・企業環境政策提言」概要版の発行
- ④「環境省」、「地球環境パートナーシッププラザ（GEIC）」HP への掲載

また、4月には、「第6回 NGO/NPO/企業環境政策提言フォーラム」を実施し、優秀提言などの報告をした。

●質疑応答

Q. 他が実施している内容内と同様なものが、優秀提言に選ばれているように思うがその点はどう評価をされたか。

A. 委員会内では類似性の議論はあまりでなかった。家庭部門や地域での実施可能性があるという点が高く評価された。

Q. 持続可能性指標についてはどのような議論がされたのか。

A. うまくいっている海外事例があれば積極的に取り入れていきたい。

Q. 提言は何のためのどのようなものか。プロジェクト？モデルを実施することが目的か？

A. ねらいは、官では考えられない民間のユニークな視点を政策に取り入れること、民間の提言能力の高め地域・国の協働が進むことを目標に行っている。

Q. 提言を出して終了という事業なのか。

A. 政策評価、検証している。

Q. 審査委員会は持続可能な社会（指標）をどのように考えているのか。

A. 持続可能な社会のための提言である。何をどこまで行なうと持続可能になる、というものはないが、それも含めて提言していただければと思う。

Q. 合計件数 51 件と報告されたが、今年度応募件数、内容、レベルはどうだったか

A. 昨年は約 100 日間で 40 件、今年は 60 日間で約 50 件集まった。地方の働きかけが影響していると思う。このような事業を引き続き行っていく必要がある。

●プレゼンテーション 平成 18 年度 優秀に準ずる提言発表

「チーム 50—50 結成とレシート等への CO2 排出量表示運動に関する提言」

特定非営利活動法人地球の未来 代表理事：駒宮 博男氏

〈NPO 法人地球の未来の提言活動〉

「ぎふ発地域からのカクメイ」をテキストとして各種セミナー、研修の実施している。岐阜県の裏金の使途及び再発防止のための行財改革に関する提言を知事へ提言。地域の NPO で利用することになった。環境省の政策提言事業に「チーム 50—50 の結成とレシートに CO2 排出量掲載」を応募。やろうと思えば民だけでもできるが、官が絡んだ方が圧倒的な力になるということで出した。事業を行うということではなく、政策提言である。また、国土交通省に国土形成計画（地域からビジョンをつくる）について、長良川流域圏で計画を考えるという政策提言をだした。農林水産省には、廃食油エマルジョンの普及に関して提言をだした。NPO はアワードがあるからやるのではなく、必要だから実施している。

〈「チーム 50—50 結成とレシート等への CO2 排出量表示運動に関する提言」〉

京都議定書を具現化する一つの戦略としてチームマイナス 6%があるが、6%は学術的には何ら意味のある数字ではない。京都議定書で数字が出されたことには意味があるが、この数字には意味があまりない。私はチームマイナス 82%をつくろうとした。さすがに避難も受けたので、50%とした。50—50 というのは、いちかばちかという意味もあり名づけた。大本は IPCC の第 3 次計画にも出ている 6 つの中の一つの一番厳しいシミュレーションで、2090 年に 82%削減を目指すというところからきている。CO2 大気濃度を 450ppm くらいにするのが人類にできる最上限である。すでにヨーロッパでは 2050 年までに 50%くらいを削減するのが妥当ではないかという議論を行っている。このライン先になるのが 2090 年の約 80%削減である。これらのバックカスティングから 82%削減というのが正しい言い方である。本当の意味で持続可能にするための指標つくるという発想で提言した。環境立国戦略の中にチーム 50—50 を入れていくことも提言した。

企業のエネルギー管理指定工場の第 1 種、2 種の換算排出量を算定して国に提出しないといけない、という法律が昨年制定された。それに伴って県からの要請でセミナー等を 2 回開催した。企業の状況は、CO2 単体はいいとしても、一酸化炭素、フロン等を完璧に削減できる企業はなかった。この法律の改正で小さな企業も対象となっていることが分かったが、小さな企業の中には専門家がほとんどいない。環境調本を見ただけで CO2 計算できるシステムができるといい、と思いました。それらの情報を私が教えている学生に話したところ、ファミレスの料理にはすべてにカロリーが書いてあるので、CO2 削減をするならあらゆる商品に CO2 排出量を計算して表示できたらいいのではないか、というアイデアを出した学生がいた。これは面白いと思い、簡易論文として学生たち一人一人に一つ企業を選んでもらい、どのようにレシートに記載したらいいかを論文として提出するという課題を出した。ある学生からは JR のキップをコピーして、飛行機ではこれだけの CO2、マイカーならこれだけ、新幹線ならこれだけ CO2 排出量が出るという企画が出てきた。これらの案が出てくる中で、EPO 中部での勉強会、仲間とのディスカッションでこの企画ができた。

この企画を実施していくにあたって、企業にとって何がプラスになるかがポイントになる。電気・ガス等は行政の役割として、公共調達の入札条件に入れてしまえば非常にプラスになると思う。

ビジネスライクな部分としては、レジ袋に CO2 排出量を記載して、有料化の一手手前で実施し、一般の消費者にこれだけ CO2 が排出するということを知ってもらい、その後有料化していただくことがいいと思う。

第 1 フェーズはエネルギー関連企業で実施したい。ここを抑えてれば、かなりのレベルで CO2 排出量を現実的に削減できる。第 2 フェーズは、鉄道関係。サイトで検索して入力すれば CO2 排出量が出てくるが、これをキップに記載すれば一目瞭然だと

思う。第3フェーズは、排出量表示が社会的影響が強いと考えられる事業者を対象。第4フェーズではスーパー等の量販店で実施する。アメリカのスーパーではすでに実施しているところがあり、自分の買った分のCO2換算量が分かるといったことがされている。賛同する企業にはチーム50-50のロゴをレジ袋等に入れて一銭企業からいただく（ファンド）。このファンドを用いて、隣地残材（切った木がそのままにされている）の経済性を取り出すことに利用する。この取り出し方法をオリンピック形式にするなど、楽しいアイデアを用いて実施していく。また、一案として、マイクロ水力発電を普及することにファンドを使うことも考えている。若者のアイデアが発端になったので、若者に還元できるような仕組みにしたい。

企画背景の必要なポイントが3つある。一つ目は持続可能社会を実現する原則である自然資本主義。これが環境の中に社会があり経済があるという考え方である。二つめは、補完性。基本理念はコミュニティでできないことを市町村、市町村でできないことを国がするという流れが大切。三つ目は、バックキャストिंग。持続可能な社会に向かってまっすぐ進むことである。（例：食料自給率100%を目指すなど）

何のための提言かが一番必要である。提言のアワードがあるから出しているわけではなく、必要であるから行っている。

Q. 自然資本主義は浸透しているか。

A. 「わが社は自然資本主義に則っています」と環境報告書等に記載されている企業はある。

Q. CO2 排出量印字を行ってどうなのか、できればいいよね、という反応があると思うが、意識の変化を感じますか。また意識を高めるために何をしたらよいか？

A. 意識は変わっていないと思う。レシートに記載するのは一つのインフラだと思う。記載して知ることによって行動に移れるかは別である。レジ袋使うとどれくらいCO2がかかるかの数値的な感覚をもっといただきたい。排出削減は大幅なエネルギー転換がなければまず無理だと思う。大きくCO2排出に関わる企業にまずはCO2レシートに印字してもらうというところがいいと思う。尚かつそれを地域でコンパクトに実施していくことが効果的だ。

Q. どういうセクターが持続可能性を考えられるのか？

A. 行政は単年度主義の点から、1年しか考えられないシステムになっている。政治は任期の点から、3、4年。企業は四半期決算が基本であり、考えられるのは3ヶ月である。一般人は今日の晩御飯どうするかという点で一日しか考えていない。それらに引き換え、林業家は最低100年くらい考えている。でもこれらの人は極めて少ない。持続可能性社会を考えられる体制にいる人はほとんどいないのが現実だ。私も農業を行っているが、基本的に1年である。持続社会論者は1000年。セクターの仕組みとして持続可能な社会を本気で考えられる仕組みになっていない。私は2050年には生きていないだろう。生きていない人間が言うのはインチキである。だからいちかばち、である。本当に2050年のことを言うのは若者である。高校生、大学生の若い力が今の社会を持続可能性な社会に動かしていかなければならない。環境問題の最大のステイクホルダーは若い人達である。若い人達が環境問題に対する主導権を握れるような仕組みを我々の世代がつくっていかなければならないと思う。

Q. 優秀に順ずる提言に選ばれたが、今後どのように動いていくのか。

A. 中部エネルギー温暖化対策推進会議（中部地域の大手企業が参加している）に何らかのかたちでこの提案をもっていく。また、この地方に全国的にも比較的大きいスーパーの方々にも提案していく。まずはレシートに印刷、そしてエネルギー面で働きかけられればいい。

企業へのインセンティブとして県・市町村の公共調達の入札要件としていくことができれば大きい。自治体単位でも実施することができるが、本省からの働きかけができると非常にスムーズに進むと思われる。

Q. フェーズの順番はどうか。消費者側から、役所側から行った方が早いのではないか。

A. 実現可能性の高いところからスタートする主義である。

国立環境研究所は 2050 年に日本・イギリスは 70%削減するというモデルを出している。また、先日安倍さんも 2050 年までに 50%削減目標ということ発言していることに、理想郷ではなく現実をみている方々も大きく動きだしてきていると思う。

●交流セッション 「チーム 50-50」の可能性を追う！

～「“チーム 50-50” で何を実施していくと CO250%削減に効果的か」～

*みなさんから出されたアイデア

メンバー	・チーム 50-50 の小学生・中学生をメンバーにする ・チーム 50-50 に女性の参加を多くえる ・チーム 50-50 に団塊メンバーを巻き込む ・アンチ CO2（積極的に削減に協力しない人）の人を誘う ・多様なスタンスのメンバーを巻き込む
活動内容	・メリット／デメリットを生活者に伝える ・小中高における教育・情報提供（考えさせること） ・省 CO2 商品を選んだメリットを見せる ・実態を可能な限り見せる活動（WEB・SNS） ・目からウロコが落ちるような節約を体験させる ・CO2 換算の簡単なものから実施する ・CO2 マイレージ ・CO2 リセットを進める ・エコマネーに CO2 インセンティブを ・炭素税を原資に CO2 が少ないサービス購入にポイント ・地域や県の特産の CO2 表示を ・レシートの前に比較して買えるように価格表示にも CO2 排出量表示を義務づける ・食品容器に容器の製造から排出までのトータルの CO2 排出量を表示する ・電子マネーとのリンク ・商品に CO2 表示／バーコードで CO2 を表示（ケータイ電話）／CO2 排出量をケータイの利用ごとに表示する ・オーガニックスーパーでフードマイレージとリンクして CO2 表示する ・レシートに CO2 削減量を表示⇒削減量を多く集めたら何かに交換。 ・CO2 排出量日記を子どもの頃から習慣化、夏休みの日記にも ・CO2 を減らせば税金を下げる ・チーム 50-50 推奨商品を示す ・CO2 優秀商品を知らせる ・グリーン購入法に CO2 表示を盛り込む ・貧しい時代を過ごした年寄りからの話 物的充実≠楽しさ
ツール	・CO2 人生ゲーム、モビリティマネジメントの普及ゲーム ・CO2 クレジット（地域通貨みたいな、交通・スーパーetc…） ・CO2 排出量電卓をつくる
課題	・消費者の出す CO2 は？ ・企業のメリットを如何につくるか？ ・ネガティブメッセージを企業は載せないのでは？

●ゲストコメント

駒宮 氏

- ・多く CO2 を出している企業は非常に公共性の高い企業だと思うので削減活動を行わなければならない。
- ・道徳教育の推進を環境教育の推進に置き換えてはどうか。
- ・万歩計みたいなもので一日の CO2 が見えるのは面白い。
- ・ネガティブメッセージになるという課題については悩んでいる。
- ・表示方法として 3 つ星、5 つ星のような星印の表記がわかりやすくいいのかもしれない。

今井 氏

- ・レシートだけではなく商品の印字も効果的だと思う。

- ・自分たちがどれくらいCO2を排出しているのかをわかってもらうことが大切である。最近特に家庭部門での対策が遅れているが、ほとんどの人があまり関心がないという事実なのかもしれない。レシートに印字して知って気付いてもらい、危機感の中で自らの行動を考えてもらうということは大切であると思った。

●意見交換 「環境政策提言事業を考える」

駒宮氏

これまでの過程で出されたみなさんの意見を参考にブラッシュアップした企画が政策提言事業に入れ込むことができたことが重要だと思う。なおかつ行政に対する提言であれば、行政の方も参加して意見交換することがとても重要だと思う。今回はアワードというかたちであったが、日常的に環境省（行政）に事業提案、政策提言ができることをシステム化しなければならないことが、今回の政策提言事業の落としどころだろう。この地域でいえば中部事務所・EPO 中部があり、ここに日常的に政策提言してくださる市民の方がいて、それに対して定期的に検討していき、良い企画をつくっていくようなシステムが重要だと思う。行政に対して市民レベルで提言できるような、しかも的を得た提言にブラッシュアップできるようなしくみをつくるといい。300km 離れた東京に対して提言することよりも、地域に対して提言しなければモノにならない。そういう点ではこのような意見交換できる場を活用していく。

参加者：地域から出た提案企画をたくさんストックしておき、EPO 中部が事業企画づくりをして中部エリアとして働きかけていってはどうか。

駒宮氏：持続可能な地域が集まって、ようやく持続可能な社会になる。すなわち持続可能な社会に対する提言というのは基本的に地域に対する提言に成らざるを得ない。地域単位でブラッシュアップされたものを地域で採用されていくことを環境省へ提言したい。

今井氏：いきなり東京に出すというよりは、甲子園の地区予選のように地域の中でもんで地域でやるべきものは地域で、全国でやるべきことは本省の方へあげていくということを今後検討していきたい。

参加者：地域予選を勝ち上がってきた企画が脚光を浴びるのではなく、地域で負けたものを反映させていくことが重要である。芽をつむことがあってはいけない。

駒宮氏：始めにアワードがあつてのことなので勝ち負けが起こる。事業提案が活かせるものかどうか重要である。

参加者：環境カウンセラーがあるがほとんど活動がみえない。各県にあるがサークルみたいになっていて、なかなか外から入れない。このあたりの方々、しくみをうまく活かせないか。ユーザーからの仕掛けをやっていきたい。もっとカウンセラーの方々をつかってほしい。

参加者：準優秀賞が具体的に実現していこうとするとかなり難しい面もある。環境省のお墨付きだけではあるが、この賞をとったということで環境省もバックアップしていき、地域でかたちにしていけることができれば、一つのモデルになっていけると思う。

参加者：市町村レベルでも政策提言事業みたいなものを行っているが、環境省とのつながりはあるのか？

今井氏：環境省から報告書を配布しており、今後自治体の方々にも政策提言事業に参加してもらってパートナーシップを図っていききたい。一つのきっかけになっていければいい。

●おわりに 今井氏

長時間に渡り活発な議論をありがとうございました。19年度の提言事業につきましては日程等の詳細な事は決まっておりますが、予算措置はされておりますので、やること自体は決まっています。現在出てきている提言を見るとまだまだ東京がほとんどである。各地でいろいろと説明会・セミナーを行っているが、あまり地方からは増えていけませんので、地域が主体的になって動いていけるように検討していきたいと思う。どうもありがとうございました。

平成 19 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（2007 年 6 月）

【平成 19 年度 6 月事業報告】

平成 19 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（4 月）は、通常業務に加え、なごや環境大学共育講座に出している 2 講座が始まった。特にユニー(株)との協働講座は昨年度から実施しているアピタ・ユニーお店探検隊事業の課題解決のために生まれたものである。また環境月間だったため、中部エコライフフェアなどのイベントに出向き、ESD の普及を試みた。また中部経済新聞社より、紙面の共同企画依頼があり、準備を進めた。昨年度に引き続き、中部電力(株)との事業がスタートした。

【6 月事業報告】

6 月 1 日	*	なごや環境大学「志」講座	宇野・鶴飼
6 月 2 日	*	なごや環境大学ユニー(株)講座	新海・桜井・宇野
6 月 3 日		RCE 準備フォーラム 小原村ワークショップ取材	新海・桜井 宇野
6 月 4 日		リコー中部(株)社長面談 エコひいき運営事務局会議	新海 新海 鶴飼
6 月 7 日		ESD-T エコライフフェア準備会	新海・桜井・宇野
6 月 14 日		安城市 ESD 提案会議	新海・桜井・宇野
	*	ESD-T 担い手会議	
6 月 15 日	*	エコひいき最終審査会	新海・鶴飼
6 月 16-17 日	*	エコライフフェア	新海・桜井・鶴飼・宇野
6 月 19 日		なごや環境大学交流会	新海
6 月 20 日		EPOC 取材 中部経済新聞社企画紙面	新海
6 月 23-24 日	*	みんなで地球愛わっしょい	宇野
6 月 24 日		ボランティアネイバース総会	新海・鶴飼
6 月 25 日		JICA 研修	桜井・新海
6 月 27 日	*	中部電力(株)環境学習キット選考会	新海・宇野

*は報告を掲載しています。

【7 月事業報告】

7 月 1 日		エネルギー環境教育フォーラム IN 東海	新海・鶴飼・宇野
7 月 3 日		安城市 ESD 検討会議 日本環境経営大賞授与式 東邦ガス(株)環境・社会報告書打ち合わせ ESD-T 講座企画会	新海 鶴飼 鶴飼 新海 桜井・宇野・新海
7 月 4 日		エコキット発送作業	宇野・新海
7 月 5 日		ワールドコラボフェスタ打ち合わせ	新海・宇野
7 月 6 日		プレ講座「市民社会を実現するコーディネーターとは」	桜井・新海・宇野・鶴飼
7 月 7 日		市民社会コーディネーター会議	桜井・新海・宇野・鶴飼
7 月 11 日		中部経済同友会研究会	鶴飼・新海
7 月 12 日		名古屋市モノづくり文化交流拠点構想検討会議 愛知県協働ワークショップ「地球温暖化防止活動について」	新海 新海
7 月 13 日		なごや環境大学共育講座審査会	新海
7 月 14 日		ユニー(株)なごや環境大学講座	新海・宇野・桜井
7 月 18 日		Panasonic NPO サポートファンド説明会	新海・鶴飼
7 月 19 日		ESD-T 担い手会議	桜井・宇野・新海
7 月 20 日		ESD-T 組織化プロジェクト	桜井・宇野・新海
7 月 24 日		EPO 中部運営協議会	全スタッフ

○今後の検討事項

* 今年度下半期事業方針の見直しと運営協議会提案事業の検討

【中部環境パートナーシップオフィス 6月月報】

6 月		来館者数 (相談・問合せ)	電話 (相談・問合せ)	相談・問合せ内容	スタッフ数
1	金	18(15)	14(13)	第1回若者の志に学ぶ講座	4
2	土	15(10)	8(5)	第1回お店探検隊インタープリター養成講座	4
3	日			RCE シンポジウム	0.25
4	月			リコー中部荒川社長ミーティング エコひいき運営事務局ミーティング	1.5
5	火	9(6)	12(7)	コーディネーター会議ミーティング	4
6	水	5(2)	14(9)		3
7	木	7(5)	15(9)	エコひいき打合せ	4
8	金	10(5)	8(5)		4
9	土	3(0)	0(0)		3
10	日				
11	月				1
12	火	8(5)	14(12)	志講座打合せ 中部経済新聞記事；EPOC との打合せ	4
13	水	13(5)	13(9)	中電エコポイント事業実験打合せ エコひいき選考会ミーティング	3
14	木	16(11)	8(5)	安城 ESD ミーティング 中部経済新聞記事：座談会 ESD-T ミーティング	4
15	金	21(18)	7(3)	エコひいき選考委員会	4
16	土	0(0)	3(2)	エコライフフェア出展	4
17	日			エコライフフェア出展	3
18	月				
19	火	4(3)	9(7)	なごや環境大学交流会	4
20	水	2(2)	5(3)	三重県・中電との打合せ	2.5
21	木	6(4)	8(4)	春日井森の幼稚園取材 中部経済新聞：EPOC との打合せ	4
22	金	3(2)	10(5)	安城 ESD ミーティング	4
23	土	0(0)	3(0)	みんなで地球・愛ワッショイ！出展	3
24	日			みんなで地球・愛ワッショイ！出展	1.5
25	月			JICA 研修	0.5
26	火	7(6)	7(5)	ユニーお店探検隊ミーティング 中電エコポイント事業選考会打合せ	4
27	水	8(5)	5(4)	中電エコポイント事業選考会 なごや環境大学うごかそまいチーム	1.5
28	木	3(3)	8(6)		3
29	金	4(2)	12(10)	ESD-J 地域モデルミーティング	4
30	土	0(0)	2(2)		3
合計 平均		162 名/22 日 7.36/日	185 件,		85.75 人 3.2 人/27 日

ホームページアクセス数：15,999 件

【中部地区の環境関連団体の基礎資料の収集・管理】

*6 月期に収集した資料 行政関連：39 種 企業関連：4 種 NPO関連：34 種 その他：3 種 計：80 件

タイトル	年度	発行	備考
世界自然遺産 白神山地マップ	2007	東北地方環境事務所	A3/16折1P 日本語
森が教室。自然が教材。	2007	環境省自然ふれあい推進室	A5 18P 日本語 2005 発行
長距離自然歩道を歩こう！	2007	環境省自然ふれあい推進室	A5 38P 日本語 2006 発行
なんじゃもんじゃ通信 Vo.19 No.3	2007	名古屋自然観察会 名古屋支部代表	B5 16P 日本語 2007.6.11 発行
水源の森ウォッチング	2007	名古屋自然観察会	A4 1P 日本語 2007 発行
樹を知る木と暮らす 加子母の木と山と家のはなし	2007	中津川市 加子母総合事務所	A3三つ折1P 日本語 2007 発行
きれいな水と空気、森の恵みの感謝祭 げん木もり森 フェスタin乙女溪谷	2007	木のあう会	A4 1P 日本語 2007 発行
磯の生き物ウォッチング	2007	名古屋自然観察会	A4 1P 日本語 2007 発行
2007年度（第18期） プロ・ナトゥーラ・ファンド助成 募集のご案内	2007	財団法人自然保護助成基金 日本自然保護協会	A4 1P 日本語 2007 発行
FLIPPER vol.7 2007 summer	2007	アイサーチ・ジャパン	B5 16P 日本語 2007.6 発行
2007こどもホタレンジャー 活動参加団体・募集！	2007	環境省	A4 1P 日本語 2007.6 発行
世界子ども水フォーラム・フォローアップin福岡	2007	世界子ども水フォーラム・フォローアップin福岡実行委員会	A4 1P 日本語 2007 発行
砂漠化進む大地とやさしき内モンゴルの人々に出会う旅	2007	日中韓環境教育協力会・内モンゴルプロジェクト	A4 1P 日本語 2007 発行
3R学習（容器包装リサイクル）教材を貸出致します	2007	財団法人クリーン・ジャパン・センター	A4 1P 日本語 発行
「つながり」に気づき、あなたから始めよう。	2007	環境省、文部科学省	A4 18P 日本語 2005 発行
こどもエコクラブ		環境省	A4 8P 日本語
我が家の環境大臣		我が家の環境大臣全国事務局（㈱日本環境教会内）	A4 1P 日本語
自治体における「エコまる」を活用したこどもエコクラブ広報普及事例紹介	2007	財団法人日本環境会、こどもエコクラブ全国事務局	A4 10P 日本語 2007 発行
「熊本県における環境教育」	2007	熊本県	A4 36P 日本語 2007 発行
環境ネットわいわい	2007	環境ネットわいわい	A5 6P 日本語 2007 発行

キャンパスライブ2007 環境ネットわいわいメンバー大募集中！	2007	環境ネットわいわい	A4 1P 日本語 2007 発行
「森林環境教育全国シンポジウム」報告書	2007	森林環境教育全国シンポジウム愛知 実行委員会・全国森林組合連合会	A4 92P 日本語 2007 発行
エネルギー環境教育フォーラムin東海	2007	四日市大学エネルギー環境教育研究 会・四日市大学	A4 1P 日本語 2007 発行
「第2回全国こども地球環境シンポジウム」募集案内	2007	NPOエコバンク	A4 1P 日本語 2007 発行
地球温暖化防止ecoコミュニティー助成事業（愛知県委託事業）公募のご案内	2007	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	A4 1P 日本語 2007 発行
温暖化対策「あいちの取り組みエコ1品」大募集！！	2007	愛知県地球温暖化防止活動推進センター	A4 6P 日本語 2007 発行
環境大気中におけるアスベスト測定法セミナー（ご案内）	2007	（社）全国環境保全推進連合会	A4 1P 日本語 2007 発行
環境問題に関するスペシャリスト それが「環境カウンセラー」です。	2007	環境省	A4 8P 日本語 2007 発行
第2回エコツーリズム大賞	2007	環境省自然環境局総務課自然ふれあい推進室	A4 12P 日本語 2007 発行
地球のためにできること。エコツーリズム推進ガイド	2007	環境省自然環境局総務課自然ふれあい推進室	A4 8P 日本語 2007 発行
飯能名栗エコツーリズム	2007	飯能市エコツーリズム推進室	A4 8P 日本語
沖縄のエコツーリズム	2007	沖縄県観光商工部観光振興課 文化 環境部自然保護課	A4四つ折1P 日本語
熊本県環境センター	2007	熊本県環境センター	A4四つ折1P 日本語
エコステージ	2007	熊本県環境センター	A4 4P 日本語
Sustailight@Plastic Factory	2007	ecoart_addict	はがき 1P 日本語 2007.6 発行
Panasonic NPOサポートファンド 2007年度助成事業 募集	2007	松下電器産業株式会社 社会文化グループ	A4 1P 日本語 2007.6 発行
みどりの風 summer夏2007	2007	セブンイレブンみどりの基金	B5 32P 日本語 2007.6.1 発行
未来環境防衛隊ドラゴンマンショー	2007	有限会社 零夢	DVD 日本語 2007 発行
中部エコライフフェア2007	2007	環境省中部地方環境事務所	A4 1P 日本語 2007 発行
キャンドルナイト in 旬楽膳 2007夏至	2007	旬楽膳	A5 1P 日本語 2007 発行
日経BP社 日経エコロジー July 2007	2007	日経BP社	A4 142P 日本語 2007.6.8 発行
中部エコライフ・フェア2007	2007	環境省中部地方環境事務所	A4 1P 日本語 2007.6 発行

おしゃれエコの仕掛け人になってみませんか？	2007	エコネクスなごや	A4 1P 日本語 2007.6 発行
持続可能な地域をつくるいろんな学び合いESD	2007	東海・中部地域の「持続可能な発展のための教育の10年」市民推進会議	A4三つ折1P 日本語 2007.6 発行
『生命の物語』	2007	“心のアラスカ～星野道夫の思いを繋ぐ～” 実行委員会	A4 1P 日本語 2007 発行
30秒で世界を変えちゃう新聞 豪快な号外 2007/06/22	2007	TEAM GOGO!事務局	B4 1P 日本語 2007.6.22 発行
平成19年度後期 なごや環境大学 共育講座募集要項（市民・市民団体用）	2007	なごや環境大学実行委員会事務局	A4 10P 日本語 2007 発行
平成19年度後期 なごや環境大学 共育講座募集要項（企業・事業者用）	2007	なごや環境大学実行委員会事務局	A4 6P 日本語 2007 発行
なごや環境塾2007 環境首都なごやを“いっしょに” 創ろう！！	2007	なごや環境大学実行委員会事務局	A4 1P 日本語 2007 発行
女の体とエコナプキン	2007	結いの会 さあ・・・会	A4 1P 日本語 2007 発行
夏休みファミリー企画！リリモ・ミステリーエコツアー	2007	(社)環境創造研究センター（愛知県地球温暖化防止活動推進センター）	A4 1P 日本語 2008 発行
「まちと交通」19号	2007	(財)豊田都市交通研究所	A4 4P 日本語 2007.5 発行
ぼらんぼ 2007年6月号	2007	なごやボランティア・NPOセンター	A4 8P 日本語 2007.5 発行
ボランティアとよい関係を作り上げるために	2007	なごやボランティア・NPOセンター	A4 1P 日本語 2007 発行
第16回全国ボランティアフェスティバル あいち・なごや	2007	第16回全国ボランティアフェスティバル推進協議会 第16回全国ボランティアフェスティバルあいち・なごや実行委員会	A4 1P 日本語 2007 発行
NGOで世界とつながる自分を発見！	2007	なごやボランティア・NPOセンター	A4 1P 日本語 2007 発行
きみにもきっとできるよ！ボランティア	2007	なごやボランティア・NPOセンター	A4 4P 日本語 2007 発行
京都の約束	2007	京都の約束プロジェクト実行委員会	A4 1P 日本語 2007 発行
犬山市市民活動支援センター しみんてい ニュース vol.29	2007	(特定)犬山市市民活動支援センターの会	A4 6P 日本語 2007.6.15 発行
市民活動・ボランティアリーダー育成セミナー 基礎講座	2007	(特定)犬山市市民活動支援センターの会	A4 1P 日本語 2007 発行
NPOと行政のテーマ別意見交換会を開催します	2007	あいちNPO交流プラザ	A4 1P 日本語 2007 発行
ボラみみ 2007 April No.88	2007	(特定)ボラみみより情報局	B5 14P 日本語

			2007.7.1 発行
平成19年度環境教育担当者会議 資料	平成19 年5月 22日	環境省総合環境政策局環境教育推進 室	A4 380P 日本語 2007.5 発行
平成19年版 環境 循環型社会 白書	平成19 年版	環境省	A4 454P 日本語 2007.6.6 発行
平成19年版 図で見る 環境 循環型社会 白書	平成19 年版	環境省	A4 75P 日本語 2007.6 発行
日本の国立公園（日本語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
日本の国立公園（英語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
日本の国立公園（中国語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
日本の国立公園（台湾語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
日本の国立公園（韓国語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
日本の自然（日本語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
日本の自然（英語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
日本の自然（中国語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
日本の自然（台湾語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
日本の自然（韓国語版）		環境省	A4 16P 日本語 2007.3 発行
なットク、知ットク3R		経済産業省産業技術環境局リサイク ル推進室	A4 66P 日本語 2007.3.31 発行
なごや環境大学活動報告書2006	2007	「なごや環境大学」実行委員会事務局	A4 135P 日本語 2007.5 発行
手をつなごうNPO～住民・企業・行政の協働による 地域づくりのために～ ①NPO法人編	2007	NPO法人グラウンドワーク東海	A4 324P 日本語 2005.3.1 発行
手をつなごうNPO～住民・企業・行政の協働による 地域づくりのために～ ②任意団体編	2007	NPO法人グラウンドワーク東海	A4 146P 日本語 2005.3.1 発行
協働のデザイン	2007	学芸出版社	A5 223P 日本語 2007.6.27 発行

【主な事業報告】

●持続可能な社会な社会をつくる 若手の「志」に学ぶ vol.2

＜持続可能な社会な社会をつくる 若手の「志」に学ぶ vol.2 って＞

昨年度 8 回シリーズで実施した第 2 弾企画。持続可能な社会の実現のために、個々の人が自分で学び、気づき考え、「志」を持ち、その志を共有しつつ、次世代を担う若者が未来社会を創造しつつ自分らしく生きるためにエンパワメントすることを目的に行います。

第 1 回 ―市民の存在意義を伝え続ける！―DJ ナーリーこと鳴海誠さんに聞く―

■概要

日時	2007 年 6 月 1 日（金）19:00～20:45
会場	環境省中部環境パートナーシッププラザ
ゲスト	鳴海 誠（愛知北 FM 放送株式会社 まちの放送室 パーソナリティ）
聞き手	新倉 春美（NPO 法人こども NPO 理事）
参加者数	13 名

■ねらいと全体の流れ

「社会にいる一人が感じたことを、社会の一つの〈意見〉と捉え、行動していくことが大切である。」そのことを伝えるために、前半はゲストの鳴海誠さんから、HISTORY（歴史）やその時々への思い、今の志を伺い、聞き手と参加者を交えてのトークセッションを行いました。後半は、「普段意識化していない自分の感じたことを意識すること」「感じたことから『自分の大切にしたいこと』を見つめること」をワークで行いました。

■鳴海さんトークセッション（ゲスト：鳴海誠さん、聞き手：新倉春美）

＜HISTORY① こどもの頃＞

学校には「勉強しに行く」感覚はありませんでした。遊びを探すの好き。「人間は脳の全部を使っていない」とテレビで聞いて、どうしたら使っていない部分を使えるだろう？と、鉄棒遊びなどで試行錯誤していました。

「人がやりそうにないことがやりたかった。」そんな小学生でした。



が
大
や
っ
誤
し

＜HISTORY② 友人との再会＞

ガソリンスタンドに勤めていたときに人生の転機が訪れました。そこで仕事をしたい、と思ったことがなかったんです。気楽に生きていこう、自分自身がやりたいことだけをやっていこうと考えていました。でも、仕事をしてお客さんから感謝されたりすると、「自分も世の中の役に立っているのかな」と気づきはじめ…。しかも生活するためのお給料がもらえる。こんなにいいことはない、と思いました。

最終的にはガソリンスタンドを辞めたのですが、そのきっかけになった人は学生時代からの幼馴染でした。その友人は環境に関心があり、石油や商売の背景に戦争があることを教えてくれました。人の命が奪われているような状況下で生産されているものを販売することにすごく抵抗を感じるようになり仕事を辞めました。



＜HISTORY③ ここ 3 年…＞

仕事を辞めていろんなところを歩くようになったら、いろんな人に出会う時間が増えました。映画「ガイアシンフォニー」をご存知でしょうか。環境についての映画ですが、友人の「見たい」という思いから、「上映会を僕たちでやろう！」ということで始まりました。犬山市から助成金をえて、犬山市の市民団体が実施しました。

次にイベント「エコライフフェア」に関わりました。環境に関する活動に携

わるようになる中で、「石油って食べれるよ」という話を聞いて「大丈夫なのか?」と思い、自分なりに調べた結果、「化学調味料などは体に良くない」という噂を耳にしました。その後「自然食品」を知り、自然食品店に勤め、販売、普及していました。自分でも畑で野菜をつくっています。趣味というよりは、「ごはんを食べるために耕す」という意味で、自分が生きていくために必要な仕事です。例えば、放送がいいものだと言唱しても、みんなが放送をやって生きていけるかというとそうではないですからね。

放送局に関わるようになったのは、メール投稿していたのがきっかけです。「こういうメッセージを発信してほしい」など投稿していて、その中で放送局へ足を運ぶきっかけをつくりました。行ってはしゃべって行ってはしゃべって、とするようになったら、たまたま局長さんが「うちでしゃべらないか」と声をかけてくれました。

実際の仕事内容は、週に1回番組を持たせていただき、広報に載っている町のニュースを読んだり、自分の視点で冗談交えた話をしたり、自分からゲストを呼び、話して頂いたりしています。先日は地元の中学校在野学習に出かける移動中のバスに放送をつないで中学生と話をしました。ラジオが地元の市民活動団体の情報をお知らせする場所となるよう、率先して自分の番組の中に取り入れようとしています。



＜放送の様子＞
中学生が実際に放送局に来てくれたときのものです。このように職場体験として放送局に来てくれるという機会もあります



＜放送局＞

犬山では、3、4年くらい前に、市の政策で昔ながらの街並みを再現しようという動きが大きくなり、その一環で、古民家を改装して作られたできた放送局です。コミュニティ放送はいろんな地域にあるんですが、関係者が来ても通り過ぎるくらい異質の空間です。

窓が開いていて、街を歩いている人に声をかけ、生放送のときにそのまんま会話に入ってもらうこともあるし、車の音や散歩の犬の鳴き声が入ることもあります。また、音響さんとしゃべり手さんが一つの部屋でやっています。音響さんと、街の人と話しながら、時にはお茶を飲みながらやっています。単純にリアルな部分を伝えたい。「特別な状態にならなくてもここで話せる」ことをいろんな人に分かってもらいたい。メール投稿していた頃しゃべって

いたことは、友達同士で朝集まってご飯を作って食べていたことなどを話していました。自給自足を実践するというと大げさですが、薪でご飯を炊いて、家庭菜園の野菜、友達が作る田んぼのお米などを使って、朝食、一日の3分の1から始めようとしていました。また「自由に食べに来ていいよ」と呼びかけていました。それが初めは7、8人で始めていたのが、ラジオを聞いて、場所は違っても一緒にご飯を食べている人が50人程になりました。

＜志キーワード；原点（ルーツ）＞

先程の朝食の話ですが、僕は単純にご飯を食べているだけですが、それが人間としてのルーツではないかと思います。人間の生活にとって必要なこと、ルーツを見つめなおしたい。

例えば、ガソリンの話でいうと「火を使う」ということのルーツに限っても、石油は歴史が浅いですからね。それよりも以前に木を燃やして生活していた、燃やした炭は土にかえておけば土にかえていく。二酸化炭素を排出するなど、あえて問題を作ってまで石油を使う必要があるのかなと思います。

＜志キーワード；取扱説明書＞

いろんなものが便利になっているんですが、ここに書いた＜取り扱い説明書＞



は、実際の取り扱い説明書でなく、その道具が引き起こす問題に対する説明書です。例えばパソコンにしても、人を追い込むようなサイトなども出てきていますが、扱うものに対しての説明がしっかり明記されていない。こうするべきだとかルールとかがない、ことが問題です。

大きくなれば大きくなるほど、複雑になれば複雑になるほど、使い方は大事だと思います。説明が安易な部分があるので、事件や事故が起こっている。例えば、原子力も安易な気持ちで使えるものじゃない。電気ができる前は、油を皿にしいて紐に火をつけているだけだったと思うんですけど、その時でも「火事に気をつける」とか使い方はあったと思います。それより複雑になったものを扱っているの、そのものに対しての気構えとか心構えといった意味で取り扱い説明書が必要だと思います。

市民活動や、自己実現や社会のためにやっていく活動についても、扱うものに対しての説明は必要だと思います。市民の活動で表立って出てきているものっていうのは、環境活動であったり、人間関係を良くしていこうというものが多いと思うのですが、例えば、子どもたちが集まってゲームをしている、そういうものを団体と考えれば、扱っているもの、ゲームを何時間もやってちゃいけない、目に悪いんだよ、という説明書がいると思う。取り扱うものに対しては説明書がいる。人の行動を規制するものではなくて、物を正しく使うための説明書ということです。

<志キーワード；子どもたち>

社会を変えていこうとしたとき、子どもたちがとても大切だと思います。なぜなら、社会に出られた方にとって、今までやってきたこと、大事にしてきたことを変えていこうとするのはすごく難しいと思うからです。

子どもたちにワークショップなどで体験してもらって、外からの視点で見てみたり、出てくる問題を感じてもらい、「変える」という必要性を分かてもらいたい。例えば、僕自身が変えたいと思ったからやる行動を、子どもたちにそのままやってもらうのではなくて、「変えたい」と思う気持ちを持ってもらいたい。逆にいえば、それは本当に変えなきゃいけないことなのかどうかを吟味してもらいたい。

例えばラジオ関係で市役所などに取材に行きますが、その時に僕が質問を投げかけるよりも、小学生の子を連れて行って直接一言二言聞いてもらったほうが分かりやすい答えが返ってくるし、時間もかからなくていい。子どもたちだと「市長さんは何をやってるんですか」と聞ける。また、「ばかじゃないの!」ということも言える。言われたことに対して、ほんとに馬鹿なことなのかその人自身も考えてほしいと思いますね。子どもたちにとってもいい体験になります。

普段の仕事の中でも子どもたちと関わる機会があります。実際に、地元の中学校の放送委員会に入れていただきました。たまたま放送室に来た中学生の子が、「放送面白い、自分もやりたい」と言ったことをきっかけに、「学校の放送部の方がよっぽど聞く人多いんじゃないの?」、「どんな放送やっているか見に行こう!」と、実際に学校に行ってきました。「僕は放送局にいるので楽しい放送にしようといろんなことを考えている。そういうことを教えてあげたい。どこまでやっていいかについては先生が決めるはずなので、中学生には考えることだけはやらせてあげたい。」そんな話をしたらぜひ来て下さいといわれました。

キーワードに子どもたちとあげましたが、子どもたちが持っている考え方や発想や気持ちの方が大事なかなと思います。子どもたちの視線で出た意見だから、先生も変わってくれました。そういう意味でも、子ども心、遊び心、というものは大事じゃないかなと思います。

「あれをがまんしたら、これがなんとかなるとかなるから」ということでなくて、単純に「楽しい」「やっていて気持ちよい」「うれしい」といったポジティブなエネルギーを生むような活動だったら、世の中の人たちも積極的に参加していきだろうし、子どもでもできる単純な明快なことだったら、やりやすいと思います。

<質疑応答>

参加者：放送室は昔何に使われていたんですか？

鳴海：たぶん人が普通に生活していたんじゃないかなと思います。

参加者：民間の会社ですか？

鳴海：民間の会社です。

参加者：インターネットでの見方は？

鳴海：「まちの放送局」で出てきます。

参加者：自分の好きな作物や花は何ですか？

鳴海：季節ごとの野菜、旬の野菜が食べたいので作っています。水田までいなくても、少しでも作れないかなと思っています。

鳴海：逆に皆さんに質問です。自給自足に興味のある人いますか？

鳴海：けっこういますね。ちなみに自給自足といえぱ？

参加者：畑、狩猟。

鳴海：自給自足というコンセプトとずれるかもしれませんが、建築屋さんで廃材をもらって炊きつけ用の燃料にしたり、竹を切ったりしながら住めるtentを作っています。そう考えると、普通に考えると何千万という価値があるんですよね。竹も、自給自足に豊かな、楽しい時間をくれる植物だと思うんです。

■ワーク「自分の感覚を見直そう！」

鳴海さんの話から特に感じるのは、自分の感じたことや大事だ、と思ったことを、とても大切にしていることです。

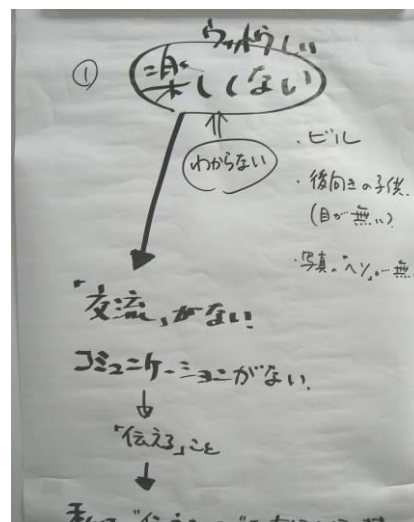
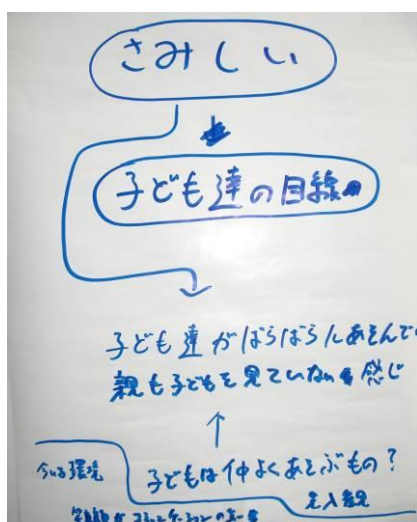
参加者のみなさんと、「普段意識していない自分の感じたことを意識すること」、「感じたことから『自分が大切にしたいこと』を見つめること」をテーマにワークを行いました。

<進め方>

- ① 1枚の写真を見て、事実だけではなく、感覚的に「感じたこと」と「何を見てそう感じたか」を書く。
- ② 「なぜそう感じたか」「〇〇だったから△△と感じた」を深めれるところまで書き出す。(はじめは一人で、その後ペアになり、問いかけに答える形で深める)
- ③ 書き出したことを振り返って、見えてきた「自分の大切にしたいこと」を書く。
- ④ どんなことを考えたか、全体で紹介。



ワークで使った公園の写真



<皆さんが写真を見て「感じたこと」と、深めて感じた「自分の大切にしたいこと」>

感じたこと	自分の大切にしたいこと
危険・安全でない感じ	子ども（子どもの教育・安全な生活）
汚れてない・整っている	コミュニケーション
面白くなさそう	明るさ、楽しさ
狭い	子どもが自分のふるさとだと自慢できるようなたくさんの自然
暗い	自然（自然のある環境）
さみしい	子どもの笑顔（コミュニケーションの第一歩）
楽しくない	伝えること（相手に伝える、相手からの発信を受け取る）
にぎやか	子どもが自由に発想できる、楽しい居場所
にぎやか	楽しく過ごしたい
重い	心
都会的	環境と人との共存、未来の子どもたち
雑多・うっとうしい	子どもたちの未来を守りたい
ビルをうつしたい	自分の意思
がんばれ	人との関わり、応援していきたい



■まとめ

鳴海さん

皆さんの感じたこと、大切にしたいことをうかがって、子どもの頃に住んでいた場所や、している仕事、自分の関わってきた時間がこういう意識を作ってきているんだな、と思いました。そう思うと自分の中だけで生まれたものではないんですね。周りの環境も自分が生まれた時に用意されていたわけではなく、地球に最初から存在したものや、人が残そうとした景観や、逆に都会的なイメージで作ったものなど、いろんな人との関わりの中で出てきたと思います。

今回は1枚の写真でしたが、影響を受けたものによって問題意識が強められ、それが社会を変えたいという気持ちにつながっている。今の子どもたちも同じように、生活する環境の中で育っていくんですね、そんなことを感じました。

今日は、この後この公園を整備しよう、木を植えにいこう、と具体的に進めていくことが目的ではないですが、「こういうイメージを持って動こう!」と、描かれたことを一つ一つの行動に繋げていっていただきたい。皆さんそれぞれが思い描いたものをお互いに確認しながら、単純に「木が少ないから」「酸素が少ないから」とかじゃなくて、「こういう時代を生きてきて〇〇だったよ」という原点を大事にしながら行動していきたいです。根本的にあるもの、本質的な部分をちゃんとみんなで話して、そこから具体的な問題にも取り掛かったり、やりたいことにつなげていけたらいいなと思います。

新倉さん

鳴海さんのお話を聞いて賛成できるところもあり、賛成できないところもありました。そういった賛成できない思いももっとみ

んなで共有していく場、共有段階が大事なのではないかと感じました。

■所感

講師鳴海さんのお話から頂いたメッセージつ、「自分の感覚を大切にすること」は誰にとっても大切なことだったと思います。ワークの中で、自分自身を見つめ、他の参加者と共感できたことが充実感につながったと思います。共感するためには、コミュニケーションが大事だと思いますが、相手の深いところまで掘り下げるような質問はすごく難しかったです。みんなで動かすための一歩、共感にたどり着くために、相手を知るためのコミュニケーション力はすごく大切だと思いました。

参加者のみなさんそれぞれが、感じたことから見つけた「大切にしたいこと」を大事にしながら行動していただければと思います。ありがとうございました。

●なごや環境大学ユニー(株)講座

お店探検隊インタープリター養成講座（全5回）～ショッピングセンターでの環境学習実践～

企画・運営 なごや環境大学実行委員会 環境省中部環境パートナーシップオフィス

【趣旨】

ユニー株式会社では、環境教育の一環として、「子ども環境学習会・エコロお店探検隊」を実施しています。プログラムの内容は、地域の子もたちがユニー株式会社の店舗を探検し「環境にやさしいお買い物」や「混ざっていけばゴミだけと分別すればリサイクル資源になる」ことを体験するなどです。また、店舗での環境に配慮した設備、ごみ量測定や分別、ゴミ保管庫などの見学を行っています。地域の拠点であるスーパーマーケットを活用した体験型環境学習は、子どもたちに気づきを促し、学びを深め、また子どもから親への環境メッセージが生じることにより、環境配慮型の生活スタイルへの転換の一つの鍵となります。EPO 中部では、よりよいプログラムが展開され、地域への影響力が高まることを目的に、このような環境学習のインタープリター養成の企画・運営を企業となごや環境大学と協働で実施します。

第1回 オリエンテーション&講義「ユニー(株)の環境ビジョン」報告

日 時：2007年6月2日（土）13:00-16:30（210分）

場 所：EPO 中部

参加者：受講者 15 名中 14 名（一人欠席）

ゲスト：百瀬則子さん（ユニー(株)環境部長）

アドバイザー：千頭聡さん（日本福祉大学）

オブザーバー：加藤美奈さん・林由香さん（(株)ラグーン）

事務局：熊沢豊さん・児島絢子さん EPO 中部：新海、桜井

【スケジュール】

*オリエンテーション

なごや環境大学からのメッセージ

熊沢 豊（なごや環境大学）

EPO 中部からのメッセージ

新海洋子（EPO 中部）

*自己紹介～アイスブレイク

桜井温子（EPO 中部）

*講義「ユニー(株)環境ビジョンを知る」

〈講師〉 ユニー(株)環境部長 百瀬則子さん

*感想・意見・交流ワークショップ&質疑応答

桜井温子（EPO 中部）

*ふりかえり

新海洋子（EPO 中部）

【講座の様子】



自己紹介タイムのインタビューゲームではみんな盛り上がってにぎやかでした。



どんな環境学習をやっているか、どんなエコアイテムを使っているか、ノウハウなども紹介しあい、学びあいました。



ユニーの環境への取り組みの講義は、ユニーの環境レポートとパワーポイントを見ながらの説明で、参加者はとても興味深く聴いていました。ごみや資源の量をきちんと測って管理していることやリサイクルはきちんと循環させていて、生ゴミから堆肥をつくりおいしくて安全なトマトなどになり、消費者に喜ばれて採算がとれていること、バイオプラスチックの使用など、お店に行けば実際に見ることができることで関心が高まっていました。



ざっくばらん感想会ワークショップでは3つのグループになり、「ここがすごい!」「これに気づいた」「こんな提案します」「これはどうなっている?」など自由に出し合う時間を持ち、「けっこう細かいところまで配慮してすごい!」「リサイクルしやすい包装で売ってほしい」などの意見が出ました



あっという間の時間でしたが、参加者にとって、参加者同士から、企業の取り組みから気づきや刺激になることが多い第 1 回目になったと思います。最後に、感想や今日得た学び、こどもたちに伝えたいこと、今後期待することをふりかえり、「こんなインタープリターになりたい」という気持ちを書き表してもらいました。企業と共に地域で環境学習を推進する活躍するインタープリターが育つように今後の学びの展開を期待しています。

【ユニー(株)環境ビジョンのポイント】

- ・ 生産地で農産物を収穫してから、商品として消費者に届けるまで、運搬時の包装、商品に並べるときの包装、食品残渣などさまざまなゴミがでる
- ・ ゴミとして捨てることは儲けを捨てること、食糧自給率の低さからいってもよくない
- ・ 捨てるものに、もう一度命を与えるリサイクルの輪をつくる
- ・ リサイクルのポイント①経済的に循環する②使ってくれる人がいる③環境負荷を与えない④継続できる
- ・ 食品廃棄物で堆肥をつくる→堆肥でだいこん、トマトをつくる→お店で売る→おいしいのでよく売れる
- ・ お店の売れ残りのパンと野菜を飼料化→養豚国産餌に→豚の食欲アップ→おいしいのでよく売れる
- ・ おいしいトマトを買いたい→見てみたら生ゴミ堆肥のリサイクル野菜だった。あとで知ることの大切さ
- ・ 消費者の生産地見学&農体験ツアー→生産者のやる気と消費者の理解につながる
- ・ レジ袋はお客さんが使用を選択できる。使わなくても代用。無くても済むものからすすめていく。
- ・ ごみの量は容器包装の量→減らせる可能性大
- ・ みんながちょっとずつ、大変からちょっとずつラッキーに変わる
- ・ 最終処分場で埋めることは自分にはみえなくなるだけ
- ・ とうもろこしプラスチックの利点→石油を使わなくていい・CO2 が増えない・土に戻る
- ・ お店の商品が環境学習の素材
- ・ いろいろな見方から説明できるインタープリターになる
- ・ 食育→体験ツアー→おいしい野菜を味わった子どもには選ぶ目、味覚が育つ
- ・ お店屋さんの役割→人の生活にやさしく環境にやさしいお店づくりを工夫して実践していくこと

【講義を聴いた参加者の感想】

- ・ ユニーもいろいろな活動をやっていることがわかりました。
- ・ 座りっぱなしで疲れた。内容はGOOD.でも少しむづかしいところがありました。
- ・ (今日は) 講義 1 時間は少し辛かったです。
- ・ 素直な百瀬さんのお話は企業のあるべき姿と感じました。
- ・ こちら(お客)からも要望を伝えることで一店舗だけでなく、社会を変える力となるんですね。
- ・ ユニーさんの環境保護への取り組みがこんなに大規模だと初めて知りました。
- ・ 百瀬さんのお話は大変わかりやすく、心にひびくものがありました。積極的にユニーでお買い物しようと思います。
- ・ とても有意義な時間を過ごせました。今後の講座も楽しみにしています。

【今日得た学びは・・・】

- ・ いろんな見方ができることが大切。
- ・ これまでは信じきれない部分があったけど企業が口だけでなく行動しているところに感心しました。
- ・ 一企業の体制の変化だけでなく社会の変化そしてお客さんの実感が必要と感じました。
- ・ 企業の取り組み
- ・ 食品リサイクル！！その他リサイクルの流れ！
- ・ ユニーさんの環境に対する姿勢に感心しました。
- ・ 他の受講生の方々もすばらしい方が多く、よい刺激にしていきたいです

【子どもたちに伝えたいと思ったことは・・・】

- ・ できることは身近にもある！かんたんにできること等。
- ・ 売る側のみではなく、買う側の意識が大切であること。
- ・ 正しい視点でお店（買い物）を見れる力をつけてほしい。
- ・ バイオプラスチックについて
- ・ 地球を守っていくこと。楽しめる学習をすること。
- ・ 自分達が普段何気にしている食について興味を持てるようにしたいです。

【今後期待することは・・・】

- ・ エネルギーのCO2換算は解りやすく良いと思います。
- ・ 原料を掘り起こして、運んで、造って、使って、廃棄して、その過程が全て計算できるのでしょうか？
- ・ いいプログラムができるといいですね。
- ・ この講座から日本が動き出せば・・・
- ・ 楽しく有意義な講座を期待します。

【こんなインタープリターになりたい】

- ・ 身近な環境のことをわかりやすく、楽しく伝えられるインタープリターを目指す
- ・ お客さま 子どもたち 私も 楽しい♪
- ・ どんな買い方が地球にやさしいかを楽しく伝えられるか
- ・ 食べ物はどう作られるか？旬はいつか？特徴は何かを知ってもらったり、堆肥化について伝えたい
- ・ インタープリターのイメージがまだわからないので勉強します
- ・ 人と人、物の循環など「つながり」を考えられるインタープリター
- ・ まずは家庭の中で『お父さん偉い』と言われるインタープリターになりたい
- ・ 子ども達にときどき、わくわく、気づきを与えられるようなプログラムを作りたい！
- ・ 都会のスーパーへ車で行ってあまり買い物をしませんけど大多数が大量消費より少量のがスーパーの経営を支えているという感想でした
- ・ お客さんと共に気づき学ぶ場を創っていきたい
- ・ 自分が得た感動を伝えたい！！
- ・ 五感で理解してもらえようインタープリターになりたい
- ・ 身近なものに結びつけてわかりやすく話せる、伝えられる
- ・ 自分ができることがあるんだと思ってもらえよう環境学習をやりたい
- ・ ハードルのある環境ではなく、ふつうの人が興味をもってもらえよう、ハードルの低い環境学習をやりたい
- ・ **ちびっ子の憧れの的**の職業になりたいな
- ・ 自分の行動と地球がつながっていることが楽しめるようにしたいな

【スタッフふりかえり】

流れはよかったと思います。協働の取り組みの意義がわかってもらえた。参加人数も妥当な人数。参加者同士和気藹々と交流す

る雰囲気がつくれました。参加者はインタープリターとしての経験が豊富な人が多かったのですが、中にはこれからやっていきたいという人もみえるので、グループづくりや発言の機会などお互いに学びあい参加度を高めるような配慮をしていく必要があります。ふりかえりシートや自己紹介シートなどを共有し、次のバスでの移動時間などを有効に活かしていきましょう。講義の中でわかったことを確認する手順があるとよかったのですが、今回は時間的に難しかったので、スタッフサイドでまとめたものを次回みなさんへお伝えします。ユニーさんの取り組みに対して、率直な感想や質問がたくさん出て意欲が高いことが伺えたので、今後さらにお店としての立場やルールを学び、企業と一緒に地域の環境学習をすすめていけるインタープリターを養成していくよう協働で働きかけていきましょう。

【所見】

ユニーという物流会社の取り組みを改めて詳しく聞いて、企業の環境への姿勢に感心し、関心が高まったという声がたくさんでした。また、参加者同士が知り合い、楽しい雰囲気ですべての参加型体験学習の場として期待感をもたれています。

講座の最初になごや環境大学からは協働の取り組みの一環であること、EPO 中部からはこの講座のねらいや進め方を伝えました。

●「小原の安心・安全・快適プラン」策定事業 第1回合同ワークショップ

日時：2007年6月3日（日）

場所：豊田市小原地区小原交流館

参加者数：約80名

「小原の安心・安全・快適プラン」策定事業は、自分たちで地域内点検を行い、問題点を整理して、自分たちの住む地域をよりよい環境にするためにはどのような活動を行っていくのがよいのか、行政と一緒に考えていくことを目的に行われます。

小原地区の一箇所をモデル的に行うのではなく、全自治区において行うため、自治区の推進リーダーが集まり、各自治区で行うワークショップの体験や課題整理等を行うワークショップを4回実施し、その間に、それぞれの自治区で行うワークショップや検討等を3回実施します。今回は自治区推進リーダーの集まる第1回目の集まりで、住民への事業説明・地域内点検の体験を行われ、私はグループ補助スタッフとして参加しました。

この事業は、小原地区出身の市役所職員の「自分の地域を良くしたい」という思いから、全自治区で行われることになった経緯がうかがえました。その思いが他の職員、担当コンサルタントにも伝わり、冒頭挨拶でその思いを伝えられたことが、住民のやる気を引き出していたように感じました。

また、地域内点検をして「危険なところ」などが多く出てきた際に、「これくらいのことはがまんしないと、本当に改善しなくてはいけないところができなくなる」という話が出ました。地域の課題は1点のみ、1分野のみを見ていただいただけでは全体の解決にはつながらない。分野を越えて、その地域で必要としていることは何か、本当に改善していくべきことは何なのかを考えていくことが、実際の地域課題の解決につながるのではないかと感じました。

●2007年度第3回ESD-T担い手会議

日時：2007年6月14日（木） 18時半～21時

場所：EPO中部

参加者：天野、村瀬、古澤、浅田、桜井、新海、宇野（順不同・7人）

議題

1. 「エコライフフェア」準備・最終打合せ
2. 「みんなで地球・愛 わっしょい！」についての確認
3. 今年度の活動計画

内容

1. 「エコライフフェア」準備・最終打合せ

- 1) ステージの変更：導入に引き続き、E S D紙芝居を行うことになり、役割分担をしました。
 - 2) 当日までにやることを確認しました。
- ※当日の報告は別途行います。

2. 「みんなで地球・愛 わっしょい！」について

1) 当日参加予定状況

- 23 日（土）：浅田、古澤、宇野、（実行委員として近藤）
24 日（日）：天野、宇野、（実行委員として近藤）
※ご都合の合う方、ぜひご参加ください！

2) 内容・搬入について

- 内容：「エコライフフェア」でやったものを縮小して行う。
⇒展示、E S D釣堀
搬入：22 日（金）に近藤さんがE P Oに来てくださる。

3. 今年やりたいことについて

第 2 回担い手会議で出た「今年やりたいこと」を参考に、実際にやりたいことを出し合い、年間計画を作成しました。

<イベント・啓発>

- ・6/23・24：わっしょい！、9/8・9：かしもでしかも、9/23・24：RCE 認証、10 月ワールドコラボ

<事例調査>

○引き続き調査を行いたい。

- ・月に 1 回できたらいい。
- ・地域的に広める。（岐阜、三重）
- ・分野的に広める。

○事例調査の活用

- ・冊子にする。
- ・事例調査に行った先でも啓発する。

○資金稼ぎ

- ・R C E をうまく使おう。
- ・助成金情報を持ち寄ろう！
- ・イベントで稼ぐ。

○調査候補

- ・朝鮮学校
- ・ジスプリ（万博継承団体）

<勉強会・ESD 講座>

勉強会、ESD 講座をやりたいと話し合いました。一緒にするか別にするかも含め今後具体化していく。

○勉強会テーマ候補

- ・E S Dベイビィ（昼、休日に。）
- ・人権
- ・アドボカシー、提言
- ・世界のE S D
- ・宗教

○ESD 講座

- ・後期（10～2 月）に月 1 回くらい、E P O と E S D-T の共催で行いたい。12 月は全体をあわせて行いたい。
- ・なごや環境大学共育講座の申し込み期限は 7 月 13 日

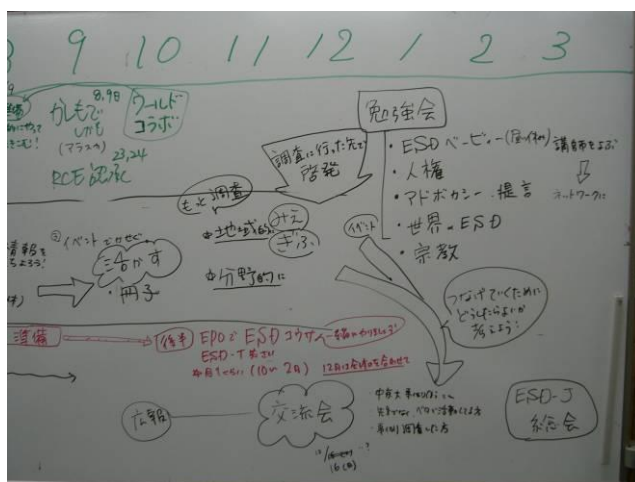
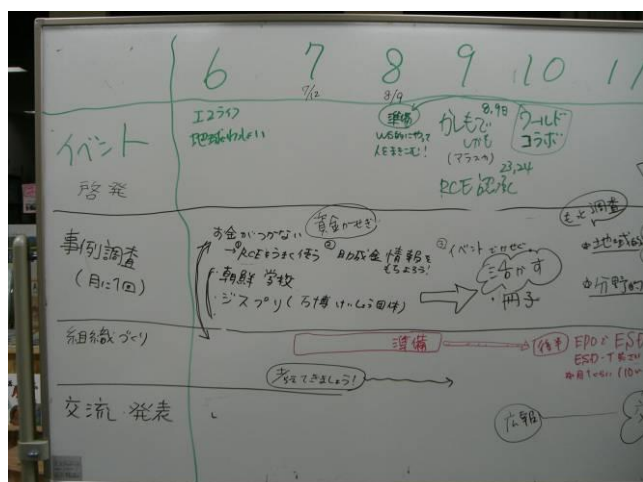
<組織づくり>

- ・9月にRCE 認証がある。それに向けてというわけではないが、7、8月から話し合いたい。
- ・12月に行う交流会に結び付けたい。

<交流・発表>

- ・12月頃に「交流会」を行いたい。(候補日は16日)
- ・事例調査、イベント、勉強会・講座等を交流会につなげたい。どんな内容で誰を呼ぶかは今後考えていきましょう!

※これらのことを、次のページに表にしました。



次回

日時：7月19日（木）18：30～（※今年から原則第3木曜になりました。）

場所：EPO中部

内容：やりたいことを具体化し計画書に落とし込みます。

来られない方、お休みした方もメーリング上でもご意見出してくださいね！

次々回日程の提案

日時：8月9日（木）18：30～（お盆をさけ、早めに開催しませんか？）

場所：EPO中部

●リコー中部(株)グリーンプロモーション〈エコひいき〉最終選考会

1. 開催概要

日時：2007年6月15日（金） 13：00－16：55 （17：30－19：00 懇親会）

会場：あいちNPO交流プラザ A会議室（1F）

主催：リコー中部(株)

企画運営：エコひいき 2007 運営事務局/環境省中部環境パートナーシップオフィス

参加者：（敬称略）

審査委員：学識経験者		千頭 聡（日本福祉大学情報社会科学部教授、EPO中部運営協議会座長、エコひいき 2007 最終選考会審査委員長）
（計 5 名）		
NPO	萩原 喜之（NPO法人地域の未来・志援センター代表理事）	
	出丸 朝代（「チャイルドライン24」実施組織理事）	
行政	新 広昭（石川県環境安全部環境政策課循環型社会推進室課長補佐、EPO中部運営協議会メンバー）	
企業	平沼 辰雄（株式会社リバイブ代表取締役）	
オブザーバー：企業	増田 鉄男（リコー中部株式会社経営企画室室長）	
（計 8 名）	岩原 明彦（株式会社デンソー経営企画部CSR推進室室長）	
	小山 剛史（株式会社デンソー総務部企画2室グループリーダー）	
	門井 徳孝（株式会社デンソー総務部企画2室DECOポン事務局スタッフ）	
行政	増田 達雄（名古屋市環境局環境都市推進部主幹）	
	永島 徹也（環境省中部地方環境事務所総務課長）	
NPO	角谷 文子（NPO法人ボラみみより情報局事務局）	
	酒井 立子（のべときや主宰）	
事務局スタッフ：社内	竹政 洋治（リコー株式会社CSR推進室）	
（計 7 名）	千賀 俊明（リコー株式会社CSR推進室）	
：社外	戸上 昭司（NPO法人地域の未来・志援センター）	
	馬場 恭子（NPO法人地域の未来・志援センター）	
	木村 真樹（コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事）	
	新海 洋子（環境省中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー）	
	鶴飼 哲（環境省中部環境パートナーシップオフィス）	



2. 企画概要

選考会と意見交換会の2部構成で実施し、第1部では、第一次審査で選ばれた22団体から、10テーマを最終選考した。審査委員の方々には事前の評価（得点・コメント・推薦）をしていただき、当日の審査に望んだ。第2部では、オブザーバーを中心に、企業とNPO、企業と行政の協働を進めていく上でのポイントを抽出しながら、意見交換した。

3. プログラム

- 13:00 開会（司会 EPO中部 鶴飼 哲）
あいさつ（リコー中部㈱ 増田 鉄男氏）
第1部＜オリエンテーション＞
1. グリーンプロモーション「エコひいき」とは？（リコー中部㈱ 竹政 洋治氏）
2. 選考会全般と最終選考会説明
3. 審査委員・オブザーバー・事務局の紹介
- 13:30 選考（ファシリテーター 日本福祉大学情報社会科学部 千頭 聡氏
小休憩（大吞地区グリーンツーリズム推進協議会 DVD 上映）
選定 10 テーマへのコメント（石川リコー㈱リコーイブニングニュース DVD 上映）
- 16:00 第2部 一言言いたい！エコひいきの可能性 テーマ「協働を進めていくためには」
（ファシリテーター 日本福祉大学情報社会科学部 千頭 聡氏）
- 16:50 閉会あいさつ
16:55 閉会
17:30–19:00 懇親会

4. 実施内容

第1部 2007年度グリーンプロモーション「エコひいき」最終選考

最終選考会対象 22 テーマにおいて、下記 10 テーマを選定した。

＜2007年度助成対象 10 テーマ＞

- 愛知県 あかばね塾
なごや東山の森づくりの会
- 岐阜県 多治見めだかカンパニー
- 三重県 NPO法人自然学校みえ
- 静岡県 大井川「白羽山はばたきの森」に集う会
- 福井県 奥越前まんまるサイト
- 石川県 地球の友・金沢
金沢エライフくらぶ
- 富山県 タンナカ高原自然ふれあい塾
あそあそ自然学校

第2部 一言言いたい！エコひいきの可能性 テーマ「協働を進めていくためには」

企業と NPO、もしくは企業と行政の協働を進めていく上で、審査委員やオブザーバーのご自身の活動から重要だと思われるポイントについて意見交換をした。どうしたら WIN WIN の関係が築けるのか、協働していく時にどのようなことに留意したらいいのか、という点について話し合った。

●協働を進めていくためのポイントとは

- ・ NPO が継続的に組織を維持することが重要であり、企業と関わることで関係性がつくれるとよい
- ・ 協働をうまく行っていくためには、NPO の組織基盤がしっかりとしていることが重要である
- ・ 社員にとって、“分かりやすい”、“楽しい”などの要素が大事である
- ・ 企業の社会貢献は“経営”という視点の中で行っていかなければならないという点を理解していただきたい
- ・ お互いを知るマッチングの場が必要である
- ・ 企業（行政）の個人と組織の体制がリンクしないといけない
- ・ NPO は思いや活動を拓げていくことをどのように考えていくかがポイント

●協働の現状はどうか

- ・ 北陸エリアはまだこれからであり、インフラの仕組みをつくっていく段階である
- ・ 環境活動 NPO はすごく表面的であり、NPO 法ができてパートナーシップや協働、市民社会というトレンドだからこざっているように感じる その中で、何も語りはしないが、ものすごくしっかりやっているところはある
- ・ 愛知県は協働がよく進んでいると言われるが、決して進んでいないと思う
- ・ 協働が目的になって、NPO 側も企業の側も、その先に何をするのかを見失っている

● “伝える” といった点ではどうか

- ・ 誰にどれだけの情報をどのようなかたちで伝えていくかという、“発信力” を対象者にどのように分けて伝えていくかが重要である
- ・ 要点をすべて詰め込むのではなく、対象者に向けてそれぞれの発信方法で伝えていくことが大切

5. 所感

多様な人が長時間公開で、助成応募団体の審査をすることは異例だと思う。これだけの人・時間を巻き込むエコひいきはすごい。第2部では色々な意見の中で、エコひいきのしくみ・価値が様々な影響を与えてきたが、まだ一部には伝える難しさがあるという課題が挙がった。外部からの視点だけでなく、市民活動や社員の現場の目線での検討が必要な時なのかもしれない。

女性社員からボトムアップで始まったエコひいき。これまで相当数の社員、ステークホルダー、市民団体を巻き込んで地域に影響を及ぼしてきた。多様なしなで様々な人達に影響を与えてきたが、ケースや受信者に応じたシンプルなコンセプトのエコひいきが求められている部分もあるかと思う。

また、エコひいきのようなしくみを他社に拡げていくためには、相手企業の性質、特色、社内状況やニーズに合わせたコンサルティングが求められると思う。志を抱いた個人（担当者）とそれを実現・反映させる企業内体制の両要素が肝でもある。エコひいきには、まだ多くの課題があるが、それ以上に社会に期待されていることを参加者と共有した。

●中部エコライフ・フェア2007 ブース出展

日 時：2007年6月16日（土）17日（日）（10:00～19:00※17日は17:00終了）

場 所：名古屋市栄公園 オアシス21「銀河の広場」

中部エコライフ・フェア2007は、環境活動のPRを目的に、中部圏に所在する国の地方支部局や中部地方環境事務所が担当する7県1市・NPO・企業等約40団体の環境に対する取り組みの紹介と、園児による「みんなでへらそうCO2」ダンス、トークセッション、コンサートなどのステージイベント等々が、環境月間の週末2日間に行われました。

今年のEPO中部ブースでは、「ESDははじめました！」と看板を掲げ、ESD～持続可能な開発のための教育を取り上げました。「ESD-T」作成の普及啓発パワーポイント紙芝居、ESD事例調査や資料・パンフレット等や流域圏地図の展示、“ESD参加体験アクティビティー、ESD釣堀”、中部電力との協働事業による環境学習キットの紹介、「ボランティアグループてとて」による福祉作業所木工製品紹介&販売や竹炭クラフトなどを実施しました。“ESD参加体験アクティビティー、ESD釣堀”は、木の枝でESD的なモノを釣り上げてもらうものです。モノには人型の紙にESDメッセージが書き込まれたものが付いています。このメッセージをESDモノ語りとして聞いてもらうものです。ESDモノ語りを読んで何か感じたら、感じたことをポストイットに書いてみんなで見るできるようにパネルに貼ってもらいました。釣堀で釣り上げるモノは、うちわ、廃油ろうそく、廃油石鹸、竹炭、ふろしき、ケナフの種、モリゾーのぬいぐるみ、アフリカの楽器、鶏が円くなって米をついばんでいるおもちゃ、ICANのティディベア、パンダのぬいぐるみ、ミレニアム目標のパンフレットなどです。今までエコグッズとして使っていたものの中にも、人権や福祉の要素が含まれているなどのESDメッセージがつけられました。釣堀スタッフがサポートして、メッセージなどを丁寧に伝えました。この釣堀は能動的なアクションが小さな子どもたちに大人気で、親御さんなどにESDを伝えるよい機会となりました。実際に使用しているESD的なものやこれから使ってみようと思うもの、思い浮かぶことなどをうかがいました。

会場は繁華街で駅近辺にあり、買い物帰りや会社帰りの方など2日間を通して多くの人が来場されました。そのような方々と、環境にやさしく、持続可能な生活についてコミュニケーションを図った2日間でした。



ESD釣堀



ESDベビー釣ったよ！



中電エコキット実験ステージ

●第3回 みんなで地球・愛ワッショイ！」ブース出展報告

日 時：2007 年 6 月 23 日（土）、24 日（日）（10:00～17:00）

場 所：豊田市 豊田スタジアム・矢作川流域一帯

「第 3 回みんなで地球・愛ワッショイ！」は、愛・地球博の理念を継承し、自然環境と人間・社会環境の保全と改善・発展のため、市民・住民が交流を行うことを目的として、NPO・企業等約 40 団体の環境に対する取り組みの紹介ブースやフリーマーケット等の出展と、活動家や研究者等の講演等が行われました。

EPO 中部では、ESD～持続可能な開発のための教育～を広く伝えるため、ESD-T 担い手会議のメンバーと「ESD-T」ブースを出展しました。ESD 事例調査や資料・パンフレット等や流域圏地図の展示、“ESD 参加体験アクティビティー、ESD 釣堀”を実施しました。

“ESD 参加体験アクティビティー、ESD 釣堀”は、木の枝で ESD 的なモノを釣り上げてもらうものです。釣堀で釣り上げるモノは、うちわ、廃油ろうそく、廃油石鯨、竹炭、ふろしき、アフリカの楽器、鶏が円くなって米をついばんでいるおもちゃ、ICAN のティティベアなどです。モノには人型の紙に ESD メッセージ（人権や福祉の要素が含まれている）が書き込まれたものが付いています。スタッフがサポートして、メッセージなどを丁寧に伝えました。この釣堀は能動的なアクションが小さな子どもたちに大人気で、親御さんなどに ESD を伝えるよい機会となりました。

また、親子連れでない大人の方には、流域圏地図や釣堀を見て「何のブースか？」と立ち止まる方も多く、一対一でお話をし、ESD を伝えるよい機会になりました。

来場者はこのイベントを目的にきている方だったため、環境などに関心を持っている方が多かったように思います。ブース前を通る方とゆっくりコミュニケーションを図り、ESD を伝えた 2 日間でした。



どうやって遊ぶのかな？

●2007年度三重県 JICA 草の根技術協力事業「地域資源を活用した協働による環境教育」に係わる研修への協力

日時：2007 年 6 月 25 日（月）10:00～12:30

場所：中部環境パートナーシップオフィス

参加者：三重県職員（坂枝誠さん）

通訳（国際協力機構、小田幸雄さん）

中国からの研修員 4 名（周文献さん、焦万益さん、陳縄建さん、郭福偉さん）

（財）国際環境技術移転研究センター（上田亜希子さん）

環境省中部地方環境事務所（永島徹也さん）

中部環境パートナーシップオフィス（新海洋子、桜井温子）

内容：講義および見学「協働でおこなっているパートナーシップ事業」

1) 環境省中部地方環境事務所の役割および事業説明（永島徹也さん）

背景～環境問題の変遷～民間団体・市民の動き～行政～企業の社会的責任

協働とは～NPO、行政機関、企業、市民の対等性、共通目的、試行的取り組み

協働年表～1992 地球サミットにおけるリオ宣言、1993 年環境基本法、1994 年環境基本計画、2003 年環境保全活動・環境教育推進法

具体的な事例～パートナーシップオフィスの設置・運営～対等な関係づくり

環境カウンセラー制度

環境教育指導員研修～文部科学省と環境省との連携。学校と NPO との出会い

環境政策提言

2) 中部環境パートナーシップオフィス（桜井温子）

中部環境パートナーシップオフィスのミッション

事業の5つの柱の説明および事業展開

協働提案事業～重点テーマ推進事業の説明および成果

管理、運営体制～運営委員会を設置している

3) 質疑応答

環境省として協働運営の難しさ、問題点はなにか？

→これまで行政職員は一段高いところから市民を見てきたので切り替えが難しい。

対等な関係づくりがポイントである。

ゴミの減量化はどのように市民を巻き込んで達成したか

→リサイクルに取り組む NPO がスーパーなどで自主回収を始めていた。藤前干潟という地域資源がゴミの埋立地として候補にあがっていたが、ここがラムサールに登録された。そこで埋立地にはできないということがクローズアップして市長のゴミ非常事態宣言がだされ、地域団体の取り組みが本格化した。

中部環境パートナーシップオフィスの運営体制を知りたい

→図表を提示して説明

講座などは多くは夜に開催されているが、これにスタッフは同席しているのか。夜は他の人にまかせて帰るのか

→仕事として同席している。

企業と連携した取り組みはどのようなことをしているのか

→中電エコポイント事業やユニーの環境教育インタープリター養成講座を説明

市民と企業との連携は難しいのではないかと

→環境レポートを読む会などを企画した。市民の企業への理解がすすみ、地域をよくしていくための提案などが出た。専門家でなくても読めるエコレポートを作成する企業もある。

パートナーシップオフィスができてよかったことはなにか

→市民、自治体、企業など異セクター間のつなぎ役になっている。

所感中国からの研修員の方々は河南省という中国のなかでも都会の部分をもつ大きな都市の環境保護局の局長や副局長である。中国でも環境問題は課題である。公害などの大きな社会問題に発展しない前に対策をしたいと話されていたが、パートナーシップによる取り組みはそのひとつの鍵である。日本と中国は東アジア圏の環境課題を解決していくパートナーであり、今後も協力していきたい。

●中部電力㈱環境学習キット選考会

日時：2007 年6月27日（木）10 時～13 時 30 分

場所：EPO 中部

出席：竹内氏（中部電力㈱担当者） 矢口氏 原氏 小林氏 宇野

欠席：千頭氏 新海

議題：①審査方法の確認と審査

②送付資料の確認

③意見交換「この事業で EPO のリソースをどう活かすか」

- ・マニュアルでの活用提案
- ・取り組みの取材

■審査方法の確認と審査

1. 応募状況の確認

- ・今回のプレゼントに対して、193名・団体から、2,031個の応募
(前回 183名・団体から、4,047個の応募)

※前回とほぼ同じ申込み。前回に比較し、適切な数量での応募が多かった。

2. 審査

中部電力㈱が作成した応募者リストのプレゼント個数案を基本個数とし、①送るか判断の必要な 4 組について確認した後、②リスト順にどんな応募があったかを確認しました。(取材したい組についても確認しました。)

○プレゼント先の決定方法

- 1) できるだけ多くの方に配付⇒申込者のほぼ全員に配付
- 2) 団体・グループについては、水のキットは5名～6名で1個を配付
- 3) 水のキットについて、小学校4年生以上のグループ団体には、「汚れた水を透明にせよ」を配付

○プレゼント配付数量

- | | |
|-----------------------------|------|
| ・にこった水をとうめいにする実験(対象年齢：6才以上) | 294個 |
| ・汚れた水を透明にせよ(対象年齢：10才以上) | 314個 |
| ・お花を元気にする土をつくる実験(対象年齢：6才以上) | 496個 |

合 計

1,104個

※当初配付予定数：1,100個

①判断した 4 組

- ・同じ学校からの応募
(案個数) 同じ学校から 4 組の応募があったので、2 組を選ぶ。
(修正個数) 残りキットの個数を確認したら少し余裕があったので、4 組とも送ることに決定。
- ・エリア外からの応募：対象から外れるため配付なし。
- ・対象外(幼稚園)での利用の応募：対象から外れるため配付なし。

②リスト順に確認

兄弟のところなど多少数量を修正しました。また、取材したいところを挙げました。(「取り組みの取材」に表記)

③ECOポイント優秀事業場の中電営業所での配付予定(各25個、計75個)

- ・長野支店松本営業所：教育委員会に寄贈
- ・長野支店篠ノ井営業所：8、9月に出前授業で使う予定。
- ・長野支店営業部

■送付資料の確認

どの資料を送るか確認し、アドバイスをいただきました。(マニュアル等は「マニュアルでの活用提案」に表記)

- ・頭文：兄弟で一つにした組は、兄弟両方の名前を書くことに決めました。

■意見交換「この事業で EPO のリソースをどう活かすか」

1. マニュアルでの活用提案

表面は、実験方法に加え、①大切にしてほしいこと、生活の中で実践してほしいことと、②実験から発展して調べられることの例を載せます。裏面は、①昨年の活用紹介と、②クイズなどを載せます。

このマニュアル、及び「シーキュラスを使った環境実験キット」について、さまざまなアドバイスをいただきました。修正については中電竹内氏と EPO 中部で責任校正し、可能であれば、みなさんにご確認いただきます。

＜アドバイスいただいたこと＞

- ・難しい言葉は別枠で言葉の説明をしてはどうか。
- ・写真よりイラストの方が、中に入れる分量などが分かりやすくよいのではないかと。⇒ゼオテックさんにイラストを頂けるか確認。（竹内氏より）
- ・数値データ（どれくらい汚すと魚が住めなくなるなど）やクイズを盛り込んでどうか。⇒クイズを裏面に盛り込む。
- ・「水を大切にすること」に関してのワークは、プロジェクトウェットの「川を汚したのは誰？」や「トンボ池」がある。これと組合せたらよいのではないかと。
- ・自分たちが食べるものは生き物を食べるだろうからいいのではないかと、と思っている子へは、そうでないということの気づきもあるのではないかと。
- ・「お花を…実験」において、堆肥にするには他のゴミを入れず、生ごみだけにしなければならないことを実感できるよう工夫できればよいのではないかと。
- ・「石炭灰をリサイクル！」の説明は、他資料があるので省略してもよいのではないかと。
- ・昨年大人の方から、「ゼオライトがなぜ汚れを吸着するか」を子どもに分かりやすく説明する方法を尋ねられた。大人のヒント集があればよいかもしれない。⇒「シーキュラスを使った環境実験キット」に説明の方法も記載する。

2. 取り組みの取材

①次のところが取材候補として挙がりました。

- ・愛知：瀬戸市立幡山中学校、岩倉市立南部中学校：小学生はわりと受身的だが、中学生は主体的に取り組みだす頃なので、どんな視点を持って取り組んでいるのかをみたい。
- ・愛知：愛知県都市整備協会 愛・地球博記念公園：モリコロパーク 1 周年記念イベントで使う。
- ・愛知：海部広域環境学習グループつしまエコきっず調査隊：2007 愛知環境賞に入賞している。
- ・愛知：環境劇団いるか：お芝居の上演などで環境に対する関心を喚起している。
- ・岐阜：神戸町立神戸小学校：環境教育に力を入れている（小林さんからの情報）
- ・岐阜：梅林児童館

②梅林児童館（岐阜）の実験日に都合がよければ、小林さんが取材して頂けるとのご提案をいただきました。

■その他

- ・1, 200個購入のうち、プレゼント分以外の21個はデモンストレーション用および予備として利用
- ・7月4日（火）EPO中部にてプレゼントを発送予定⇒発送しました。
- ・10月15日までに実験結果の報告をいただき、報告書にまとめる

■所見

審査会は、プレゼント個数案があり検討を要する部分が明確であったため、スムーズに行われた。応募団体には、前回打合せの意見からチラシを配付した環境学習施設や自然体験・関係施設もあった。地域での新たな活用方法の一つとして注目し、取材していきたい。

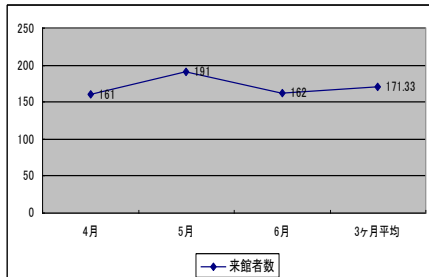
マニュアルは、実験を通して子どもたち自身が考え、行動していくきっかけとなるよう作成した。みなさんの意見より、より子どもに読みやすい形に作成できたと思う。また、他プログラムと組み合わせるといった新しいアイデアもあった。地域の活動団体で実施しているプログラムと組み合わせることで、さらに深みのある環境学習ができる可能性を感じた。

取材は、来年度以降さまざまな活用方法を紹介するべく行いたい。自身で学習を広げるきっかけを聞き取るようなヒアリング項目を検討し、運営協議会メンバーと協力して取材を行いたい。

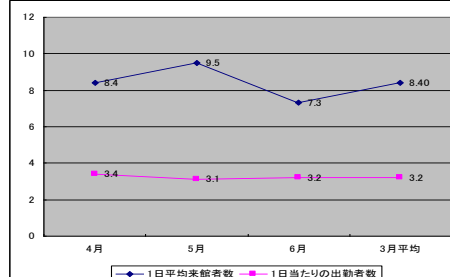
運営業務（2007 年度 4－6 月期）データ報告

（１）EPO 中部維持管理業務

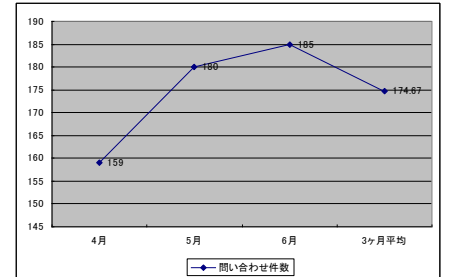
	4 月	5 月	6 月	3 ヶ月合計	3 ヶ月平均
開館日数	20	20	22	62	20.7
来館者数	161	191	162	514	171
1 日平均来館者数	8.4	9.5	7.3	25.2	8.4
問い合わせ件数	159	180	185	524	174
1 日当たりの出勤者数	3.4	3.1	3.2	9.7	3.2



来館者数



1日平均の来館者数・出勤者数



問い合わせ数

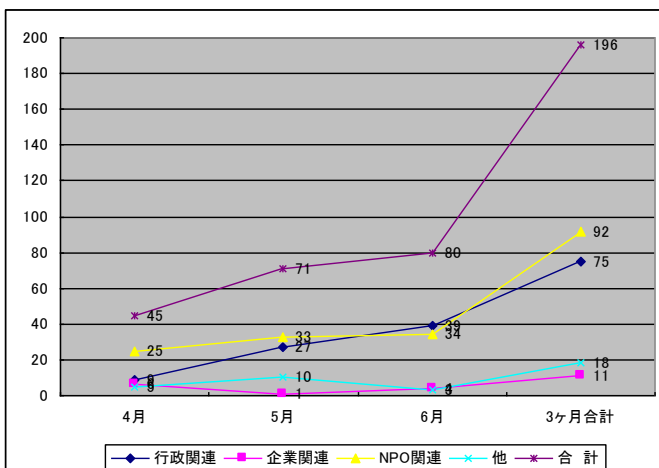
（２）EPO 中部広報業務/環境情報の受発信

①情報収集

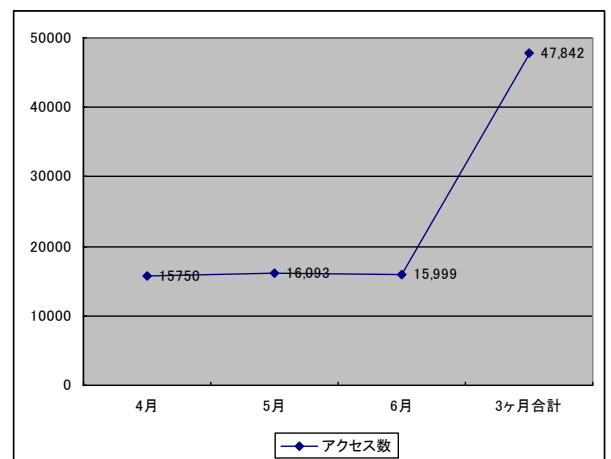
	4 月	5 月	6 月	3 ヶ月合計	3 ヶ月平均
行政関連	9	27	39	75	25
企業関連	6	1	4	11	3.6
NPO 関連	25	33	34	92	30.6
他	5	10	3	18	6
合 計	45	71	80	196	65.3

（３）ホームページアクセス数

	4 月	5 月	6 月	3 ヶ月合計	3 ヶ月平均
アクセス数	15750	16,093	15,999	47,842	15,947



資料収集数



ホームページアクセス数